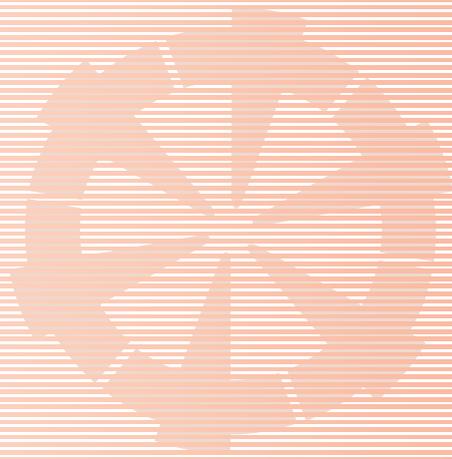


JUROKU BANK

2015.9



十六銀行中間期ディスクロージャー誌



十六銀行

All For Your
Smile
これからのサービス



行章



「十」が6個で「十六」銀行を意味するとともに、「十」の字を人間模様と考え、全職員が手をつなぎ、和（輪）を誓い心を一にして前進することを示しています。

PROFILE

| | |
|--------|--|
| 名称 | 株式会社 十六銀行 |
| 創設 | 明治10年10月 |
| 本店所在地 | 岐阜市 |
| 営業拠点数 | 本支店148か店 出張所10か所 ローンサービスセンター19か所 |
| | 海外駐在員事務所 4か所（香港・上海・シンガポール・バンコク） |
| 店舗外ATM | 254か所 |
| 資本金 | 368億円 |
| 従業員数 | 3,408名 |
| 預金等残高 | 5兆4,394億円 |
| | <small>※譲渡性預金含む</small> |
| 貸出金残高 | 3兆9,045億円 |

(平成27年9月30日現在)



皆さまには、平素より十六銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

ここに、当行の営業の概況や平成27年9月期決算の状況を皆さまにご理解いただくため、中間期ディスクロージャー誌を作成いたしました。ご高覧いただき、当行をさらに身近に感じていただければ幸いに存じます。

さて、金融機関を取り巻く環境をみますと、少子高齢化の進行や人口減少などにより、地域経済が構造的に縮小することも懸念されるなか、地域金融機関には、地域のお客さまの資金ニーズにお応えしていくことに加え、「地方創生」への取組みに積極的に参画し、地域経済の活性化を後押ししていくことが求められております。

こうしたなか、当行は、お客さまとの双方向のコミュニケーションを積極的に強め、強固な信頼関係を築きあげていく「エンゲージメント力」をさらに向上させ、お客さまの夢の実現や発展に貢献するとともに、お客さまや地域の皆さまとともに持続的な成長を成し遂げなければなりません。

かかる課題に対し、「第13次中期経営計画～All For Your Smile ころろにひびくサービスを～」を着実に遂行し、「持続的成長力を備え、真に頼りにしていただける地域金融機関」を目指し、一層の企業価値の向上に邁進してまいります。

皆さまにおかれましては、今後とも引続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成28年1月

取締役頭取

村瀬幸雄

当行の基本理念

基本方針

十六銀行は金融機関としての公共的使命を遂行することによって地域社会に奉仕する。

十六銀行は広い視野に立ち、つねに合理性を貫き堅実な経営により発展をはかる。

十六銀行はすべての職員が安定した生活ができるよう努力する。

経営方針

頼りにしていただける銀行

当行が歩む道—それは地域社会を離れてはありえません。地域社会との緊密化を深め、豊かで住みよい地域社会を築くことが、当行に課せられた使命です。お客さまの立場に立って行動し、総合金融サービスの拡充に努めるとともに、地元企業の育成、地域開発への参画等、地域中枢金融機関として、皆さまから一層頼りにしていただける銀行になるよう努力しています。

充実した銀行

お客さまのニーズに即応し、質の高いサービスを提供していくには、経営体質が強固でなければなりません。このため、コンプライアンスを前提とした収益力の強化、資産の健全性の維持・向上に努め、リスク管理を徹底するとともに、経営全般にわたる合理化・効率化を推進しています。

行動する銀行

激変する環境にあっても、金融機関としての機能を最大限に発揮する原動力は、高いモラルをもった活力ある人材であり、強靱な組織力です。誠意を尽くし高度な知識をもって、皆さまのお役に立つことができる人材育成に取り組むとともに、変化に柔軟かつ的確に対応できる組織づくりに努めています。

行動指針

職場と人生

われわれは仕事を通じて社会に奉仕する。職場は自己を成長させ、幸福をもたらす場であるとの自覚に立ち、つねに最善をつくそう。

和の精神

信頼と協力は明るい職場をつくる。相たずさえて心からの和を誓おう。

信用の向上

銀行の生命は信用である。誠意をもって人に接し、熱意をもって仕事に当り、信用の向上に努めよう。

たくましい実行力

実行は明日を創造する。信念と勇気をもって仕事をすすめよう。

後継者の育成

後継者の育成はわれわれの責任であり誇りである。明日の経営に自己を活かすことを考え、より良い後継者を育てよう。

業績ハイライト

| | |
|-------|---|
| 事業の概況 | 4 |
|-------|---|

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

| | |
|----------------------------|----|
| 地域密着型金融推進に関する基本方針 | 10 |
| 中小企業の経営支援にかかる態勢 | 10 |
| 中小企業の経営支援及び地域の活性化に関する取組み状況 | 11 |

連結情報

| | |
|----------|----|
| 中間連結財務諸表 | 12 |
| 概要・概況等 | 22 |
| セグメント情報等 | 23 |
| 各種指標等 | 26 |

財務の状況

| | |
|--------|----|
| 中間財務諸表 | 27 |
| 資本・株式等 | 32 |
| 各種指標等 | 33 |
| 損益の状況 | 34 |

業務の状況

| | |
|-------------|----|
| 預金 | 36 |
| 貸出金 | 37 |
| 不良債権残高 | 40 |
| 有価証券 | 41 |
| 時価情報 | 43 |
| デリバティブ取引情報 | 45 |
| 外国・内国為替等 | 47 |
| オフ・バランス取引情報 | 48 |

自己資本の充実の状況等について

| | |
|---------------|----|
| 自己資本の構成に関する事項 | 49 |
| 連結に係る定量的な事項 | 53 |
| 単体に係る定量的な事項 | 60 |

業績ハイライト

事業の概況

経営環境

当中間期のわが国経済は、雇用・所得環境の改善やエネルギー価格の下落、訪日観光客による消費などが景気を下支えました。一方で、設備投資は横ばいであり、中国や新興国の景気下振れリスクが浮上して輸出が弱含んだことなどから、景気は概ね横ばいで推移しました。

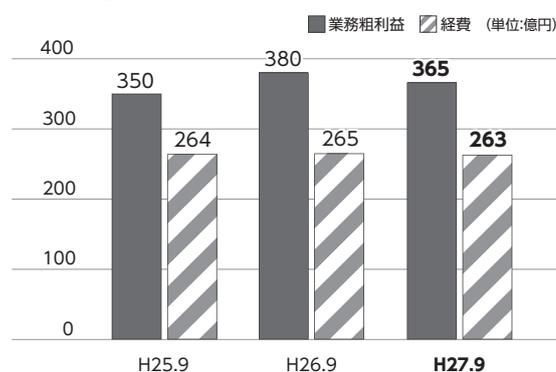
当行の主要な営業基盤である岐阜・愛知両県におきましては、良好な雇用環境が持続し、個人消費は緩やかに改善、住宅投資・設備投資も増加しました。

こうした状況のなか、当中間期の業績は次のとおりとなりました。

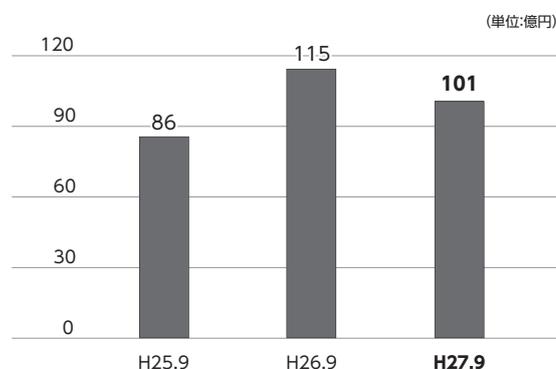
損益の状況

資金の効率的な運用・調達、役務取引の増強ならびに経営全般にわたる合理化の推進により、収益力の強化に努めました。経常利益は、与信関係費用が改善したものの、実質業務純益および株式等関係損益が減少したことなどから、前年同期比11億円減少し133億円となりました。この結果、中間純利益は、前年同期比4億円減少し95億円となりました。

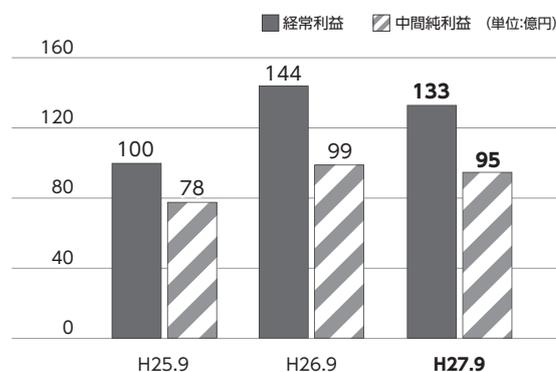
▶ 業務粗利益・経費



▶ 実質業務純益



▶ 経常利益・中間純利益



●用語説明

業務粗利益

資金利益・役務取引等利益・その他業務利益を合計したものです。

実質業務純益

業務粗利益から経費を控除したものであり、銀行の本来業務から得られる利益をより正確に示すものです。

経常利益

実質業務純益に株式の売却損益・償却および与信関係費用等を加減したものです。

中間純利益

経常利益に特別損益および税金等を加減した最終的な利益です。

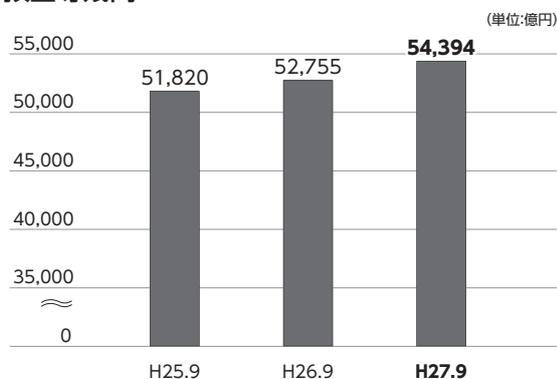
預金等・貸出金の状況

● 預金等

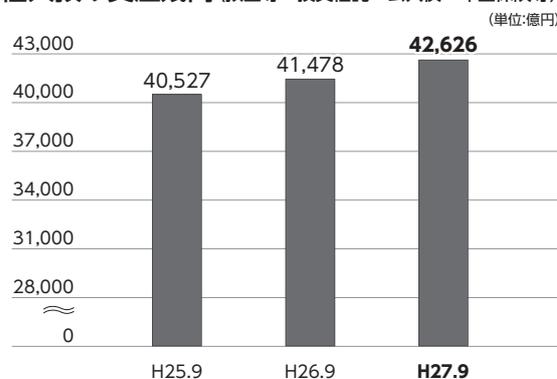
キャンペーン等の各種営業施策を通じ、低コストかつ長期安定的な資金の調達に努めるとともに、資産運用ニーズの高まりやニーズの多様化に的確にお応えするため、個人を中心に投資信託、年金・終身保険等投資型商品

の増強に努めました。この結果、平成27年9月末の預金等残高は、前年同期比1,639億円増加し5兆4,394億円となり、個人預り資産残高は、前年同期比1,148億円増加し4兆2,626億円となりました。

▶ 預金等残高



▶ 個人預り資産残高 (預金等+投資信託+公共債+年金保険等)



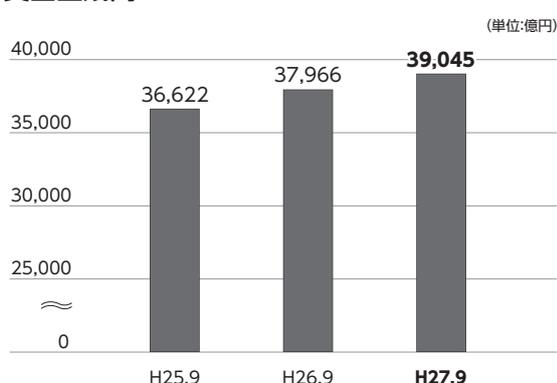
※預金等には譲渡性預金を含みます。

● 貸出金

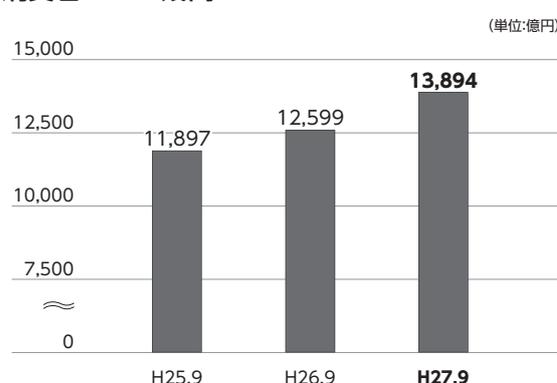
地元企業、特に中小企業の資金需要に積極的にお応えするとともに、住宅ローンを中心とした個人ローンの取扱いに努めました。こ

の結果、平成27年9月末の貸出金残高は、前年同期比1,079億円増加し3兆9,045億円となりました。

▶ 貸出金残高



▶ 消費者ローン残高



業績ハイライト

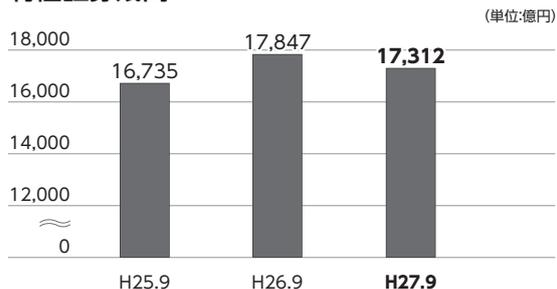
有価証券の状況

国債、地方債等の引受、購入のほか、相場環境を注視しつつ、資金の効率的運用のための債券等の売買を行いました。この結果、平成27年9月末の有価証券残高は、前年同期比

535億円減少し1兆7,312億円となりました。

なお、金融商品会計に基づき時価評価を実施しておりますが、評価益と評価損を通算した評価損益は+858億円となりました。

▶ 有価証券残高



▶ 有価証券の評価損益(単体) (平成27年9月30日現在)

| | 評価損益 | 評価益 | 評価損 |
|-----|------|-----|-----|
| 株式 | 683 | 704 | 21 |
| 債券 | 186 | 194 | 8 |
| その他 | △11 | 42 | 54 |
| 合計 | 858 | 942 | 83 |

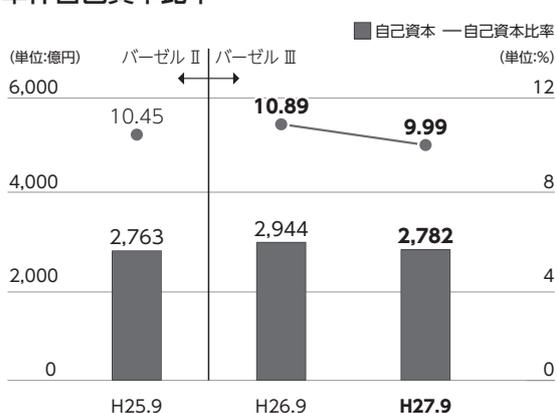
(注)時価は、期末日における市場価格等に基づいています。

自己資本比率

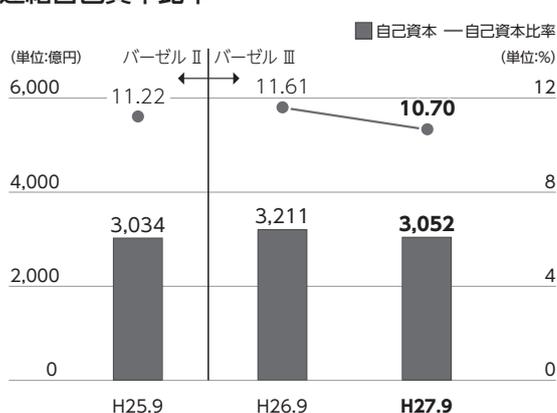
平成27年9月末の自己資本比率は単体で9.99%、連結で10.70%となり、国内基準の4%を十分上回っています。なお、平成26年3

月末より、バーゼルⅢ基準の自己資本比率を算出しています。

▶ 単体自己資本比率



▶ 連結自己資本比率



「自己資本比率」は、「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第19号）」に基づき算出しております。

●用語説明

自己資本比率

銀行の健全性を示す最も重要な指標の一つで、自己資本比率が高いほど健全性は高いといえます。なお、国内基準では4%以上を維持することが求められています。

配当政策

利益配分につきましては、金融取引を巡るリスクが多様化するなかにあつて財務体質の一層の向上に留意しつつ、安定的な配当を継続して実施することを基本方針としております。こうしたなか、前記基本方針に基づき、当中間期末配当金を3円50銭といたしました。期末配当金

につきましても、3円50銭を予定しておりますので、年間配当金は7円となります。

内部留保金につきましては、強固な経営体質の構築および競争力の維持向上をはかるとともに、資本効率の向上を通じて企業価値を高めるため、有効に活用してまいります。

連結の業績

銀行業におきましては、経常収益は、生命保険代理店手数料の増加を主因として役務取引等収益が増加したものの、貸出金利息等の減少により資金運用収益が減少したことなどから、前年同期比10億42百万円減少し468億83百万円となりました。経常費用は、物件費の減少を主因として営業経費が減少したものの、国債等債券売却損が増加したことなどから、前年同期比1億40百万円増加し335億46百万円となりました。この結果、経常利益は前年同期比11億81百万円減少し133億37百万円となりました。

リース業におきましては、経常収益は、前年同期比2億79百万円増加し104億54百万円、経常費用は前年同期比2億円増加し96億48百万円となり、経常利益は前年同期比78百万円

増加し8億5百万円となりました。

クレジットカード業、信用保証業等のその他におきましては、経常収益は前年同期比54百万円増加し30億75百万円、経常費用は前年同期比2億26百万円増加し22億33百万円となり、経常利益は前年同期比1億71百万円減少し8億42百万円となりました。

この結果、グループ全体での当中間期の経常収益は前年同期比8億18百万円減少し595億64百万円、経常費用は前年同期比4億93百万円増加し446億24百万円となり、経常利益は前年同期比13億11百万円減少し149億40百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比7億61百万円減少し101億51百万円となりました。

連結キャッシュ・フローの状況

当中間期における営業活動によるキャッシュ・フローは、預金および譲渡性預金の増加などにより440億90百万円の収入（前中間期は949億22百万円の収入）となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得などにより896億2百万円の支出（前中間期は135億98百万円の支出）となりまし

た。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより17億1百万円の支出（前中間期は14億32百万円の支出）となりました。この結果、現金及び現金同等物の中間期末残高は、当中間期中に472億14百万円減少し3,517億80百万円となりました。

業績ハイライト

不良債権の状況

「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律（金融再生法）」に基づく貸出金等の資産の査定結果は、右表のとおりです。

▶ 金融再生法に基づく資産の査定（単体）

（平成27年9月30日現在）

（単位：億円）

| | 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 危険債権 | 要管理債権 | 正常債権 | 合計 |
|---------------|-------------------|-------|-------|--------|--------|
| 貸出金等の残高(A) | 142 | 859 | 90 | 38,457 | 39,548 |
| 担保等の保全額(B) | 58 | 525 | 31 | | |
| 引当額(C) | 83 | 181 | 5 | | |
| (B + C) = (D) | 142 | 706 | 36 | | |
| カバー率 | 100.0% | 82.2% | 39.8% | | |

(注) 1. 記載金額は単位未満を四捨五入し、比率は小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

2. 「金融再生法に基づく資産の査定（単体）」には、「貸出金」のほか、「支払承諾見返」、「自行保証付私募債」、「未収利息」、「仮払金」等を含みます。

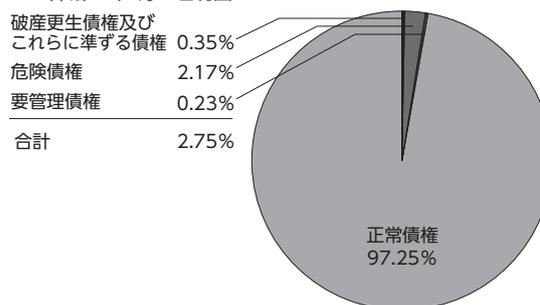
3. カバー率 = (D) ÷ (A) × 100

不良債権比率

不良債権比率は、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」が0.35%、「危険債権」が2.17%、「要管理債権」が0.23%で、合計2.75%となり前年同期比0.28ポイント改善しました。

▶ 不良債権比率

（平成27年9月30日現在）



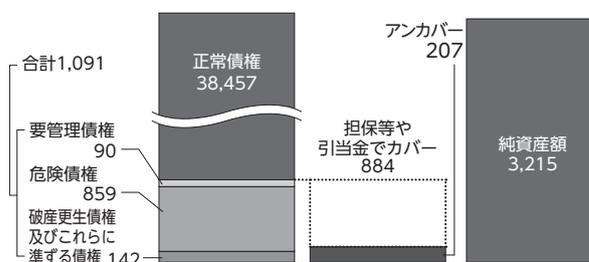
不良債権に対する備え

金融再生法に基づく正常債権以外の債権は1,091億円となっていますが、その81.0% (884億円) が担保等や引当金でカバーされています。残りの19.0% (207億円) については、お取引先の経営状態から、直ちに引当を要するものではありませんが、将来の貸倒に対しても、当行の純資産の部合計額は3,215億円あり、これに与える影響は軽微です。

▶ 金融再生法に基づく開示額

（平成27年9月30日現在）

（単位：億円）



不良債権の状況（連結）

金融再生法に準拠した貸出金等の資産の査定結果は、右表のとおりです。

▶ 金融再生法に準拠した資産の査定（連結）

（平成27年9月30日現在）

（単位：億円）

| | 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 危険債権 | 要管理債権 | 正常債権 | 合計 |
|---------------|-------------------|-------|-------|--------|--------|
| 貸出金等の残高(A) | 159 | 865 | 90 | 38,970 | 40,084 |
| 担保等の保全額(B) | 58 | 508 | 36 | | |
| 引当額(C) | 100 | 183 | 5 | | |
| (B + C) = (D) | 159 | 691 | 41 | | |
| カバー率 | 100.0% | 79.9% | 45.8% | | |

(注) 1. 記載金額は単位未満を四捨五入し、比率は小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

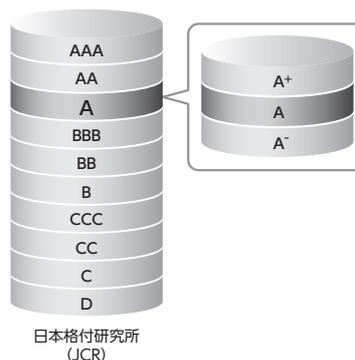
2. 「金融再生法に準拠した資産の査定（連結）」には、連結子会社の「貸出金」等のほか、「カード債権」、「リース・割賦債権」、「求償債権」等を含みます。

3. カバー率 = (D) ÷ (A) × 100

格付け

当行は、日本格付研究所（JCR）から「A」格付けを取得しています。

▶ 格付け（平成27年9月30日現在）



● 用語説明

格付け

企業が発行する債券等の元金金が約定どおりに支払われるか、あるいは企業そのものの健全度・信用度を簡単な記号で表したもので、第三者である格付機関が公正な立場から格付けを行います。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権およびこれらに準ずる債権

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態および経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収および利息の受取りができない可能性の高い債権

要管理債権

「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」および「危険債権」を除く、3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

正常債権

債務者の財政状態および経営成績に特に問題がないものとして、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外のものに区分される債権

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

地域密着型金融推進に関する基本方針

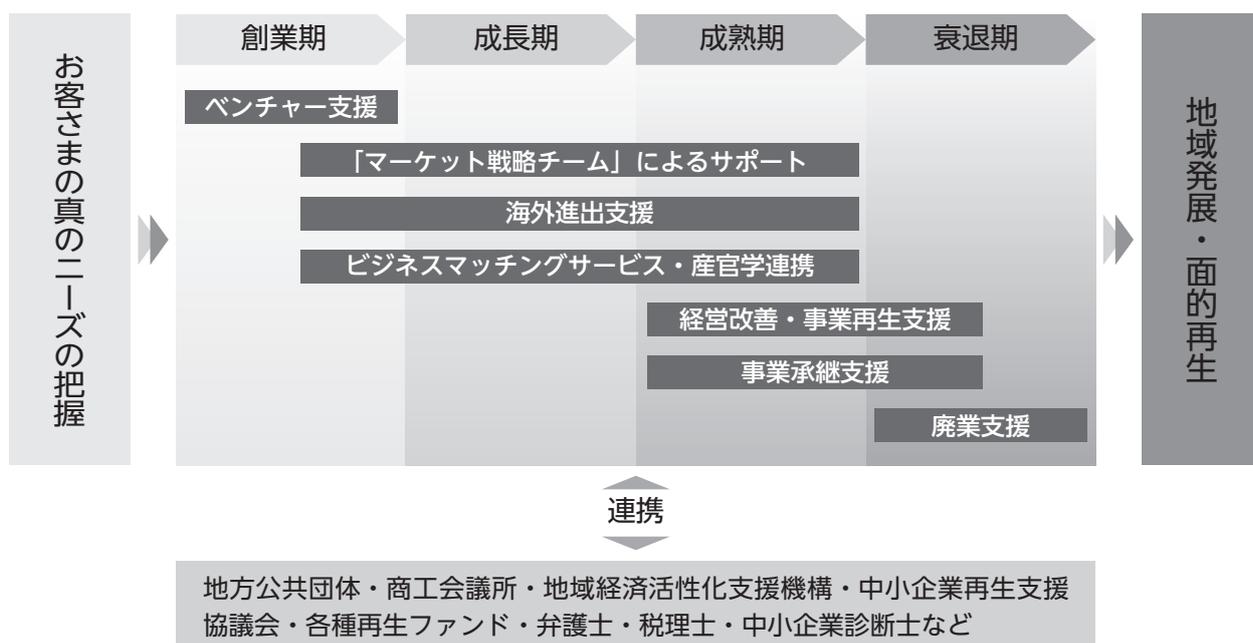
基本的な取組方針

地域金融機関の最大の競争力は、質の高いリレーションシップを通じて地域のお客さまの真のニーズを把握し、そのニーズを満たす最も適切な金融サービスを提供していくことにあります。地域密着型金融の強化は、まさしく地域金融機関としての競争力の強化であり、地元中小企業の支援・育成、地域経済への貢献等は、当行の経営基盤強化そのものであります。

地域金融機関である当行が、地域経済の発展と自らの収益向上をはかるために注力すべき手段としては、リレーションシップ機能を強化していくことが極めて重要であることから、地域密着型金融の取組みを経営の柱として位置づけ、地域に根ざした経営を実践してまいります。

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化
2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底
3. 地域の情報集積を活用した、持続可能な地域経済への貢献

中小企業の経営支援にかかる態勢



事業性評価に基づく融資等を進めるための方針

当行は、財務データ等の定量的な情報に加えて、お客さまの定性的な情報を含めてより深くお客さまを知ること（事業性評価）をベースとして、当行としての中長期的なお客さまとの関係の持ち方を策定し、お客さまとの関係性を深化させ、その成長を支援してまいります。

「経営者保証に関するガイドライン」への対応

当行は、平成25年12月に公表された「経営者保証に関するガイドライン」を尊重し、遵守するための態勢を整備しており、お客さまと保証契約を締結する場合や保証人のお客さまがガイドラインに則した保証債務の整理を申し立てられた場合には、ガイドラインに基づいて誠実に対応するよう努めております。

中小企業の経営支援及び地域の活性化に関する取組み状況

当行では、「地域密着型金融のさらなる推進」を第13次中期経営計画の基本戦略に掲げ、平成26年4月からスタートした「第6次地域密着型金融推進計画」に基づき、中小企業等の経営支援や地域経済の活性化等に継続的に取り組んでおります。

<平成27年度中間期の主な取組み>

| 重点項目 | 具体的な施策 |
|---------------------------------|---|
| お取引先に対するコンサルティング機能の発揮 | <ul style="list-style-type: none"> ● 創業・新事業の開拓を目指すお取引先へのサポート <ul style="list-style-type: none"> ・「十六フロンティア第3号投資事業有限責任組合」の活用による投資の取組み ・「じゅうろく六次産業化ファンド投資事業有限責任組合」の活用による投資の取組み ・第1回「NOBUNAGAファーストステージ」の公募 ・「医療産業参入支援のためのサプライヤーマッチング説明会」の開催 |
| 成長段階におけるさらなる飛躍が見込まれるお取引先へのサポート | <ul style="list-style-type: none"> ● 成長段階におけるさらなる飛躍が見込まれるお取引先へのサポート <ul style="list-style-type: none"> ・「サプライヤー探索サービス(逆見本市商談会)」の定期的な開催 ・株式会社国際協力銀行とのベトナム向け協調融資の実施 ・次世代経営者および若手経営者のための「じゅうろく経営戦略セミナー」を各地で開催 ・第7回「香港・華南地区 日系企業ビジネス交流会」の開催 ・愛知県制度融資の経済環境適応資金パワーアップ資金【金融機関提案型】の取扱開始 ・第2回「Mfair バンコク 2015 ものづくり商談会」の開催 ・設備投資税制セミナーを愛知・岐阜で開催 ・ジェイ・ウィル・グループとの顧客の海外進出支援に関する業務提携の締結 ・「観光活性化マザーファンド投資事業有限責任組合」との協調融資の実施 ・「インド進出支援セミナー」の開催 |
| 経営改善、事業再生・業種転換が必要とされるお取引先へのサポート | <ul style="list-style-type: none"> ● 経営改善、事業再生・業種転換が必要とされるお取引先へのサポート <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業再生支援協議会等、外部機関と連携した経営改善支援 ・岐阜県中小企業診断士協会との連携 ・「中期経営計画策定セミナー」の開催 ・「ぎふ中小企業支援(官民一体)2号ファンド」の活用による事業再生支援 ・地域経済活性化支援機構との「特定専門家派遣業務」にかかる業務提携の活用による取組み |
| 事業承継を必要とされるお取引先へのサポート | <ul style="list-style-type: none"> ● 事業承継を必要とされるお取引先へのサポート <ul style="list-style-type: none"> ・企業オーナーへの事業承継コンサルティング(個別相談)の取組みを強化 ・オーナー富裕層向けのセミナーを随時開催 |
| 地域の面的再生への積極的な参画 | <ul style="list-style-type: none"> ・「第7回じゅうろくPFI/PPPセミナー」の開催 ・岐阜県との「移住定住促進に関する協定」の締結および「岐阜県移住者向け住宅ローン」の取扱開始 ・一宮市との「地方創生にかかる包括連携協力に関する協定」の締結 ・岐阜県および愛知県下17商工会議所ならびに103商工会との連携協定の締結 ・「森林資産見える化プロジェクトに関する包括的連携協定」の締結 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・「夏休み親子特別企画」<じゅうろくキッズフェスタ!>の開催 |

<平成27年度中間期の取組み実績>

「サプライヤー探索サービス(逆見本市商談会)」

- ・開催回数 24回(延べ商談件数398件)

「ビジネスマッチング」

- ・商談件数 236件

「経営改善支援」の取組み状況

- ・経営改善支援取組み対象先175先の経営改善支援に積極的に取組み、131先について再生計画を策定しました。その結果、7先について債務者区分のランクアップをはかることができました。

「経営者保証に関するガイドライン」の活用状況

- ・新規に無保証で融資した件数 1,891件
- ・保証契約を変更・解除した件数 376件
- ・ガイドラインに基づく保証債務整理の成立件数 1件

連結情報

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科目 | 平成26年度中間期 平成26年9月30日 | 平成27年度中間期 平成27年9月30日 |
|----------------|-------------------------|-------------------------|
| 【資産の部】 | | |
| 現金預け金 | 172,362 | 352,546 |
| コールローン及び買入手形 | 20,000 | 1,000 |
| 商品有価証券 | 924 | 1,522 |
| 金銭の信託 | 11,823 | 6,998 |
| 有価証券 | 1,780,137 | 1,726,849 |
| 貸出金 | 3,786,053 | 3,892,783 |
| 外国為替 | 9,042 | 4,853 |
| リース債権及びリース投資資産 | 43,861 | 45,374 |
| その他資産 | 50,899 | 43,154 |
| 有形固定資産 | 65,267 | 66,277 |
| 無形固定資産 | 8,649 | 9,198 |
| 退職給付に係る資産 | 2,876 | 8,556 |
| 繰延税金資産 | 756 | 654 |
| 支払承諾見返 | 22,900 | 21,219 |
| 貸倒引当金 | △37,755 | △35,092 |
| 資産の部合計 | 5,937,801 | 6,145,899 |

(単位：百万円)

| 科目 | 平成26年度中間期 平成26年9月30日 | 平成27年度中間期 平成27年9月30日 |
|--------------------|-------------------------|-------------------------|
| 【負債の部】 | | |
| 預金 | 5,103,083 | 5,254,797 |
| 譲渡性預金 | 147,382 | 158,904 |
| 売現先勘定 | — | 18,386 |
| コールマネー及び売渡手形 | 7,114 | — |
| 債券貸借取引受入担保金 | 162,153 | 192,154 |
| 借入金 | 64,590 | 51,985 |
| 外国為替 | 1,313 | 1,414 |
| 社債 | 10,000 | 10,000 |
| その他負債 | 41,548 | 49,942 |
| 賞与引当金 | 1,707 | 1,819 |
| 退職給付に係る負債 | 5,777 | 6,079 |
| 役員退職慰労引当金 | 4 | 5 |
| 睡眠預金払戻損失引当金 | 370 | 453 |
| 偶発損失引当金 | 1,237 | 1,126 |
| 繰延税金負債 | 14,406 | 17,550 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 8,682 | 7,834 |
| 支払承諾 | 22,900 | 21,219 |
| 負債の部合計 | 5,592,273 | 5,793,675 |
| 【純資産の部】 | | |
| 資本金 | 36,839 | 36,839 |
| 資本剰余金 | 47,819 | 48,169 |
| 利益剰余金 | 177,401 | 176,312 |
| 自己株式 | △1,532 | △1,547 |
| 株主資本合計 | 260,528 | 259,773 |
| その他有価証券評価差額金 | 56,704 | 59,717 |
| 繰延ヘッジ損益 | — | △319 |
| 土地再評価差額金 | 13,601 | 14,363 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △830 | 2,390 |
| その他の包括利益累計額合計 | 69,476 | 76,152 |
| 新株予約権 | 40 | 83 |
| 非支配株主持分 | 15,483 | 16,214 |
| 純資産の部合計 | 345,528 | 352,224 |
| 負債及び純資産の部合計 | 5,937,801 | 6,145,899 |

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

| 科目 | 平成26年度中間期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで) | 平成27年度中間期 (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで) |
|--------------------|--|--|
| 経常収益 | 60,382 | 59,564 |
| 資金運用収益 | 34,255 | 31,779 |
| (うち貸出金利息) | 24,793 | 23,182 |
| (うち有価証券利息配当金) | 9,325 | 8,335 |
| 役務取引等収益 | 8,506 | 9,018 |
| その他業務収益 | 13,842 | 15,165 |
| その他経常収益 | 3,777 | 3,601 |
| 経常費用 | 44,131 | 44,624 |
| 資金調達費用 | 2,687 | 2,757 |
| (うち預金利息) | 2,075 | 2,077 |
| 役務取引等費用 | 3,019 | 3,160 |
| その他業務費用 | 9,607 | 10,194 |
| 営業経費 | 28,273 | 28,148 |
| その他経常費用 | 543 | 364 |
| 経常利益 | 16,251 | 14,940 |
| 特別利益 | 313 | 0 |
| 固定資産処分益 | 21 | 0 |
| 負ののれん発生益 | 7 | — |
| 持分変動利益 | 284 | — |
| 特別損失 | 45 | 156 |
| 固定資産処分損 | 28 | 93 |
| 減損損失 | 16 | 63 |
| 税金等調整前中間純利益 | 16,520 | 14,784 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,274 | 3,720 |
| 法人税等調整額 | 3,776 | 343 |
| 法人税等合計 | 5,051 | 4,063 |
| 中間純利益 | 11,468 | 10,720 |
| 非支配株主に帰属する中間純利益 | 556 | 569 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 10,912 | 10,151 |

中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

| 科目 | 平成26年度中間期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで) | 平成27年度中間期 (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで) |
|----------------|--|--|
| 中間純利益 | 11,468 | 10,720 |
| その他の包括利益 | 7,769 | △17,001 |
| その他有価証券評価差額金 | 7,728 | △16,601 |
| 繰延ヘッジ損益 | — | △319 |
| 退職給付に係る調整額 | 40 | △80 |
| 中間包括利益 | 19,237 | △6,280 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る中間包括利益 | 18,647 | △6,818 |
| 非支配株主に係る中間包括利益 | 589 | 538 |

中間連結株主資本等変動計算書

平成26年度中間期(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)

(単位:百万円)

| | 株主資本 | | | | |
|-----------------------|--------|--------|---------|--------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 36,839 | 47,817 | 162,909 | △1,531 | 246,034 |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | | 4,997 | | 4,997 |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | 36,839 | 47,817 | 167,907 | △1,531 | 251,031 |
| 当中間期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △1,417 | | △1,417 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | | | 10,912 | | 10,912 |
| 自己株式の取得 | | | | △7 | △7 |
| 自己株式の処分 | | 2 | | 6 | 8 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | | | | | |
| 当中間期変動額合計 | — | 2 | 9,494 | △0 | 9,496 |
| 当中間期末残高 | 36,839 | 47,819 | 177,401 | △1,532 | 260,528 |

| | その他の包括利益累計額 | | | | 新株予約権 | 非支配株主持分 | 純資産合計 |
|-----------------------|--------------|----------|--------------|---------------|-------|---------|---------|
| | その他有価証券評価差額金 | 土地再評価差額金 | 退職給付に係る調整累計額 | その他の包括利益累計額合計 | | | |
| 当期首残高 | 49,010 | 13,601 | △870 | 61,741 | 26 | 15,287 | 323,089 |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | | | | | | 4,997 |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | 49,010 | 13,601 | △870 | 61,741 | 26 | 15,287 | 328,087 |
| 当中間期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | △1,417 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | | | | | | | 10,912 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | △7 |
| 自己株式の処分 | | | | | | | 8 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | 7,694 | — | 40 | 7,735 | 14 | 195 | 7,944 |
| 当中間期変動額合計 | 7,694 | — | 40 | 7,735 | 14 | 195 | 17,440 |
| 当中間期末残高 | 56,704 | 13,601 | △830 | 69,476 | 40 | 15,483 | 345,528 |

平成27年度中間期(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)

(単位:百万円)

| | 株主資本 | | | | |
|-----------------------|--------|--------|---------|--------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 36,839 | 47,815 | 167,820 | △1,539 | 250,934 |
| 当中間期変動額 | | | | | |
| 連結範囲の変動 | | 353 | | | 353 |
| 剰余金の配当 | | | △1,681 | | △1,681 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | | | 10,151 | | 10,151 |
| 自己株式の取得 | | | | △12 | △12 |
| 自己株式の処分 | | 1 | | 4 | 5 |
| 土地再評価差額金の取崩 | | | 22 | | 22 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | | | | | |
| 当中間期変動額合計 | — | 354 | 8,492 | △8 | 8,839 |
| 当中間期末残高 | 36,839 | 48,169 | 176,312 | △1,547 | 259,773 |

| | その他の包括利益累計額 | | | | | 新株予約権 | 非支配株主持分 | 純資産合計 |
|-----------------------|--------------|---------|----------|--------------|---------------|-------|---------|---------|
| | その他有価証券評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 土地再評価差額金 | 退職給付に係る調整累計額 | その他の包括利益累計額合計 | | | |
| 当期首残高 | 76,288 | — | 14,385 | 2,471 | 93,145 | 65 | 16,037 | 360,183 |
| 当中間期変動額 | | | | | | | | |
| 連結範囲の変動 | | | | | | | | 353 |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | △1,681 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | | | | | | | | 10,151 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | △12 |
| 自己株式の処分 | | | | | | | | 5 |
| 土地再評価差額金の取崩 | | | | | | | | 22 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | △16,570 | △319 | △22 | △80 | △16,992 | 18 | 176 | △16,797 |
| 当中間期変動額合計 | △16,570 | △319 | △22 | △80 | △16,992 | 18 | 176 | △7,958 |
| 当中間期末残高 | 59,717 | △319 | 14,363 | 2,390 | 76,152 | 83 | 16,214 | 352,224 |

連結情報

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| 科目 | 平成26年度中間期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで) | 平成27年度中間期 (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで) |
|------------------------------|--|--|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前中間純利益 | 16,520 | 14,784 |
| 減価償却費 | 1,852 | 2,066 |
| 減損損失 | 16 | 63 |
| のれん償却額 | 122 | 122 |
| 負ののれん発生益 | △7 | — |
| 持分変動損益(△は益) | △284 | — |
| 貸倒引当金の増減(△) | △3,623 | △3,119 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | 8 | 35 |
| 役員賞与引当金の増減額(△は減少) | △40 | △41 |
| 退職給付に係る資産の増減額(△は増加) | △272 | △545 |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | 68 | 144 |
| 役員退職慰労引当金の増減額(△は減少) | △0 | 1 |
| 睡眠預金払戻損失引当金の増減額(△は減少) | △101 | △164 |
| 偶発損失引当金の増減(△) | 52 | 12 |
| 資金運用収益 | △34,255 | △31,779 |
| 資金調達費用 | 2,687 | 2,757 |
| 有価証券関係損益(△) | △3,869 | △3,516 |
| 金融派生商品未実現損益(△) | 183 | △16 |
| 為替差損益(△は益) | △11 | 0 |
| 固定資産処分損益(△は益) | 6 | 92 |
| 商品有価証券の純増(△)減 | 112 | △65 |
| 金銭の信託の純増(△)減 | △1,330 | 4,650 |
| 貸出金の純増(△)減 | △45,374 | △38,188 |
| 預金の純増減(△) | 76,947 | 27,427 |
| 譲渡性預金の純増減(△) | 41,370 | 24,928 |
| 預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減 | 1,967 | △620 |
| コールローン等の純増(△)減 | △19,000 | — |
| コールマネー等の純増減(△) | △7,809 | 18,386 |
| 債券貸借取引受入担保金の純増減(△) | 46,184 | △358 |
| 外国為替(資産)の純増(△)減 | △2,742 | 8,550 |
| 外国為替(負債)の純増減(△) | 527 | 340 |
| リース債権及びリース投資資産の純増(△)減 | △622 | △1,060 |
| 資金運用による収入 | 35,331 | 33,543 |
| 資金調達による支出 | △2,857 | △2,960 |
| その他 | △4,296 | △6,477 |
| 小計 | 97,457 | 48,992 |
| 法人税等の支払額 | △2,545 | △5,376 |
| 法人税等の還付額 | 10 | 475 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 94,922 | 44,090 |

(単位：百万円)

| 科目 | 平成26年度中間期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで) | 平成27年度中間期 (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで) |
|------------------------------|--|--|
| 投資活動による キャッシュ・フロー | | |
| 有価証券の取得による支出 | △375,919 | △421,582 |
| 有価証券の売却による収入 | 275,355 | 198,380 |
| 有価証券の償還による収入 | 89,008 | 136,986 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △1,388 | △1,934 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △662 | △1,396 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 124 | 13 |
| その他の支出 | △117 | △70 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △13,598 | △89,602 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | | |
| 自己株式の取得による支出 | △7 | △12 |
| 自己株式の売却による収入 | 1 | 0 |
| 配当金の支払額 | △1,417 | △1,681 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | △8 | △8 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △1,432 | △1,701 |
| 現金及び現金同等物に 係る換算差額 | 11 | △0 |
| 現金及び現金同等物の 増減額(△は減少) | 79,903 | △47,214 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 91,663 | 398,995 |
| 現金及び現金同等物の 中間期末残高 | 171,566 | 351,780 |

当行は金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、四半期報告書に記載された中間連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。

注記事項 (平成27年度中間期)

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社 6社
(連結の範囲の変更)

十六信用保証株式会社を存続会社とする連結子会社同士の合併により、当中間連結会計期間より1社を連結の範囲から除外しております。

- (2) 非連結子会社 5社
主要な会社名

投資事業有限責任組合 岐阜県一十六第2号

非連結子会社は、その資産、経常収益、中間純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の非連結子会社 0社
(2) 持分法適用の関連会社 0社
(3) 持分法非適用の非連結子会社 5社

主要な会社名

投資事業有限責任組合 岐阜県一十六第2号

持分法非適用の非連結子会社は、中間純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても中間連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除外しております。

- (4) 持分法非適用の関連会社 0社

3. 連結子会社の中間決算日に関する事項

連結子会社の中間決算日は全て9月末であり、中間連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

- (1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。

- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券については原則として中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(ロ) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

- (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

- (4) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産(リース資産を除く)

有形固定資産の減価償却は、定率法を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物: 15年~50年

その他: 4年~20年

- ② 無形固定資産(リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

- ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外の場合は零としております。

- (5) 貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」(日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号平成24年7月4日)に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

また、破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額が一定額以上の債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法(キャッシュ・フロー見積法)により計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産査定管理部署が査定結果を検証のうえ内部監査部署が監査を実施しております。

連結子会社の貸倒引当金は、当行の方法に準じて各々予め定めている償却・引当基準に則り、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

- (6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

- (7) 役員退職慰労引当金の計上基準

連結子会社の役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく中間連結会計期間末支給額を計上しております。

- (8) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止し、利益計上を行った預金の預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績等に基づく将来の払戻見込額を計上しております。

- (9) 偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。

- (10) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異: 各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生時の翌連結会計年度から損益処理

なお、連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る当中間連結会計期間末の自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

- (11) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行及び連結子会社の外貨建資産・負債は、中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

連結情報

(12) リース取引の処理方法 (貸手側)

リース取引開始日が「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号平成19年3月30日)適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号平成19年3月30日)第81項に基づき、同会計基準適用初年度の前連結会計年度末における固定資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)をリース投資資産の期首の価額として計上しており、同会計基準適用後の残存期間においては、利息相当額の総額をリース期間中の各期に定額で配分しております。

なお、同適用指針第80項を適用した場合と比べ、税金等調整前中間純利益は16百万円増加しております。

(13) 重要なヘッジ会計の方法

金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号平成14年2月13日)に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる有価証券等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の(残存)期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。

(14) 収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(15) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、中間連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

(16) 消費税等の会計処理

当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、取扱方式によっております。

(会計方針の変更)

(「企業結合に関する会計基準」等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)[連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、当中間連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当行の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当中間連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する中間連結会計期間の中間連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、中間純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前中間連結会計期間については、中間連結財務諸表の組替えを行っております。

当中間連結会計期間の中間連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得または売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得または売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当中間連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当中間連結会計期間の税金等調整前中間純利益は

353百万円減少しております。また、当中間連結会計期間末の資本剰余金が353百万円増加しております。

当中間連結会計期間の中間連結株主資本等変動計算書の資本剰余金の期末残高は353百万円増加しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(中間連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社の出資金の総額
出資金 196百万円

2. 無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

30,184百万円

3. 貸出金(求償債権等を含む。以下4、5.同じ。)のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

破綻先債権額 3,981百万円
延滞債権額 98,079百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

4. 貸出金のうち3ヵ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3ヵ月以上延滞債権額 318百万円

なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

5. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額 8,705百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。

6. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額 111,083百万円

なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号平成14年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

26,621百万円

8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券 327,397百万円
リース債権及びリース投資資産 227百万円
その他資産 42百万円

計 327,667百万円

担保資産に対応する債務

預金 73,699百万円
売現先勘定 18,386百万円
債券貸借取引受入担保金 192,154百万円
借入金 14,624百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物・オプション取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券 63,905百万円
 その他資産 11百万円
 また、その他資産には、先物取引差入証拠金及び保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

先物取引差入証拠金 76百万円
 保証金 2,161百万円

9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 1,391,876百万円

うち原契約期間が1年以内のもの

(又は任意の時期に無条件で取消 可能なもの) 1,380,906百万円

上記融資未実行残高のうち総合口座取引に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

うち総合口座取引に係る 730,624百万円
 融資未実行残高

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内(社内)手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

10. 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 平成10年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価格(路線価)に基づいて、奥行価格補正、時点修正、不整形補正等の合理的な調整を行って算出しております。

11. 有形固定資産の減価償却累計額 61,145百万円
 減価償却累計額
12. 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金が含まれております。劣後特約付借入金 11,000百万円
13. 社債は、劣後特約付社債であります。劣後特約付社債 10,000百万円
14. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額 23,772百万円

(中間連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。
 貸倒引当金戻入益 1,087百万円
2. 営業経費には、次のものを含んでおります。
 給料・手当 10,728百万円
 賞与引当金繰入額 1,819百万円
 退職給付費用 716百万円

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

| | 当連結 会計年度 期首株式数 | 当中間連結 会計期間 増加株式数 | 当中間連結 会計期間 減少株式数 | 当中間連結 会計期間末 株式数 | 摘要 |
|-------|----------------------|------------------------|------------------------|-----------------------|--------|
| 発行済株式 | | | | | |
| 普通株式 | 379,241 | — | — | 379,241 | |
| 合計 | 379,241 | — | — | 379,241 | |
| 自己株式 | | | | | |
| 普通株式 | 5,567 | 25 | 16 | 5,576 | (注)1、2 |
| 合計 | 5,567 | 25 | 16 | 5,576 | |

(注)1. 普通株式の自己株式の株式数の増加25千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少16千株は、ストック・オプションの権利行使による譲渡15千株、および単元未満株式の買増請求に伴い処分したことによるもの1千株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

| 区分 | 新株予約権 の内訳 | 新株予約権の 目的となる 株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(株) | | | 当中間連結 会計期間末 残高 (百万円) | 摘要 |
|----|---------------------------------|--------------------------|--------------------|---------------------|----------------------|-------------------------------|----|
| | | | 当連結会計 年度期首 | 当中間連結 会計期間 増加 | 当中間連結 会計期間末 減少 | | |
| 当行 | ストック・ オプション としての 新株予約権 | | — | — | — | 83 | |
| 合計 | | | — | — | — | 83 | |

3. 配当に関する事項

- (1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成27年6月19日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,681 | 4.50 | 平成27年3月31日 | 平成27年6月22日 |

- (2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 配当の原資 | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|---------------------|-------|-----------------|-------|-----------------|------------|-------------|
| 平成27年11月11日 取締役会 | 普通株式 | 1,307 | 利益剰余金 | 3.50 | 平成27年9月30日 | 平成27年12月10日 |

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | |
|-------------|------------|
| 現金預け金勘定 | 352,546百万円 |
| 日銀預け金以外の預け金 | △766百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 351,780百万円 |

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(借手側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

- (1) リース資産の内容

有形固定資産

支店建物であります。

- (2) リース資産の減価償却の方法

「(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」中、[4. 会計方針に関する事項]の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

連結情報

(貸手側)

(1) リース投資資産の内訳

(単位：百万円)

| | |
|----------|--------|
| リース料債権部分 | 45,331 |
| 見積残存価額部分 | 1,356 |
| 受取利息相当額 | △4,297 |
| 合計 | 42,389 |

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の中間連結会計期間末日後の回収予定額

(単位：百万円)

| | リース債権 | リース投資資産 |
|---------|-------|---------|
| 1年以内 | 880 | 11,918 |
| 1年超2年以内 | 732 | 10,073 |
| 2年超3年以内 | 524 | 8,205 |
| 3年超4年以内 | 340 | 6,118 |
| 4年超5年以内 | 419 | 3,952 |
| 5年超 | 473 | 5,062 |

2. オペレーティング・リース取引

(借手側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

| | |
|------|-------|
| 1年以内 | 207 |
| 1年超 | 2,717 |
| 合計 | 2,924 |

(貸手側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

| | |
|------|-------|
| 1年以内 | 429 |
| 1年超 | 847 |
| 合計 | 1,276 |

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません(注2) 参照)。

(単位：百万円)

| | 中間連結貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
|------------------|--------------|-----------|--------|
| (1) 現金預け金 | 352,546 | 352,546 | — |
| (2) 商品有価証券 | | | |
| 売買目的有価証券 | 1,522 | 1,522 | — |
| (3) 金銭の信託 | 6,998 | 6,998 | — |
| (4) 有価証券 | | | |
| 満期保有目的の債券 | 23,689 | 23,875 | 186 |
| 其他有価証券 | 1,693,245 | 1,693,245 | — |
| (5) 貸出金 | 3,892,783 | | |
| 貸倒引当金 (*1) | △33,164 | | |
| | 3,859,618 | 3,880,881 | 21,262 |
| 資産計 | 5,937,622 | 5,959,071 | 21,449 |
| (1) 預金 | 5,254,797 | 5,257,262 | 2,465 |
| (2) 譲渡性預金 | 158,904 | 158,904 | — |
| (3) 債券貸借取引受入担保金 | 192,154 | 192,154 | — |
| 負債計 | 5,605,856 | 5,608,321 | 2,465 |
| デリバティブ取引 (*2) | | | |
| ヘッジ会計が適用されていないもの | (1,567) | (1,567) | — |
| ヘッジ会計が適用されているもの | (466) | (466) | — |
| デリバティブ取引計 | (2,034) | (2,034) | — |

(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、() で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金預け金

預け金は、満期のないものであり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 商品有価証券

ディーリング業務のために保有している債券等の有価証券については、取引所等の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

(3) 金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券については、株式は取引所の価格、債券は取引所等の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

なお、保有目的ごとの金銭の信託に関する注記事項については「(金銭の信託関係)」に記載しております。

(4) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所等の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

自行保証付私募債は、当該私募債の発行体の信用リスクを反映した将来キャッシュ・フローを見積もり、リスク・フリー・レートに一定の管理コストを加味した利率で割り引いて時価を算定しております。ただし、発行体の債務者区分が破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先の自行保証付私募債については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて時価を算定しております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「(有価証券関係)」に記載しております。

(5) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類、内部格付及び期間に基づく区分ごとに、信用リスクを反映した将来キャッシュ・フローを見積もり、リスク・フリー・レートに一定の管理コストを加味した利率で割り引いて時価を算定しております。ただし、固定金利によるもののうち、住宅ローン等の一部の消費者ローンについては、ローンの種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は中間連結決算日における中間連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

負債

(1) 預金、及び (2) 譲渡性預金

要求払預金については、中間連結決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金については、商品及び期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローを、新規に預金を受け入れる際に使用する利率で割り引いて時価を算定しております。なお、預入期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 債券貸借取引受入担保金

債券貸借取引受入担保金については、約定期間が短期間（1年以内）であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、「(デリバティブ取引関係)」に記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産 (4) 有価証券」には含まれておりません。

(単位：百万円)

| 区分 | 中間連結貸借対照表計上額 |
|--------------------------------|--------------|
| ①非上場株式 (*1) (*2) | 7,066 |
| ②投資事業有限責任組合及びそれに類する組合の出資金 (*3) | 2,847 |
| 合計 | 9,914 |

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(*2) 当中間連結会計期間において、非上場株式について49百万円減損処理を行っております。

(*3) 投資事業有限責任組合及びそれに類する組合の出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしておりません。

(有価証券関係)

※ 中間連結貸借対照表の「有価証券」について記載しております。

1. 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

| | 平成27年度中間期末 | | | |
|------------------------|------------|--------------|--------|-----|
| | 種類 | 中間連結貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
| 時価が中間連結貸借対照表計上額を超えるもの | 債券 | 20,377 | 20,596 | 218 |
| | 国債 | — | — | — |
| | 地方債 | — | — | — |
| | 短期社債 | — | — | — |
| | 社債 | 20,377 | 20,596 | 218 |
| | その他 | — | — | — |
| | 小計 | 20,377 | 20,596 | 218 |
| 時価が中間連結貸借対照表計上額を超えないもの | 債券 | 3,312 | 3,279 | △32 |
| | 国債 | — | — | — |
| | 地方債 | — | — | — |
| | 短期社債 | — | — | — |
| | 社債 | 3,312 | 3,279 | △32 |
| | その他 | — | — | — |
| | 小計 | 3,312 | 3,279 | △32 |
| 合計 | | 23,689 | 23,875 | 186 |

2. その他有価証券

(単位：百万円)

| | 平成27年度中間期末 | | | |
|--------------------------|------------|--------------|-----------|--------|
| | 種類 | 中間連結貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
| 中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | 株式 | 123,581 | 52,159 | 71,421 |
| | 債券 | 1,143,286 | 1,124,031 | 19,254 |
| | 国債 | 633,938 | 622,819 | 11,119 |
| | 地方債 | 199,595 | 196,222 | 3,372 |
| | 短期社債 | — | — | — |
| | 社債 | 309,752 | 304,989 | 4,762 |
| | その他 | 169,938 | 165,646 | 4,291 |
| | 小計 | 1,436,806 | 1,341,838 | 94,968 |
| 中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 株式 | 10,656 | 12,808 | △2,152 |
| | 債券 | 88,357 | 89,135 | △777 |
| | 国債 | 62,071 | 62,763 | △692 |
| | 地方債 | 7,448 | 7,455 | △6 |
| | 短期社債 | — | — | — |
| | 社債 | 18,838 | 18,916 | △78 |
| | その他 | 157,424 | 162,826 | △5,402 |
| | 小計 | 256,438 | 264,770 | △8,332 |
| 合計 | | 1,693,245 | 1,606,609 | 86,636 |

3. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間連結貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間連結会計期間の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当中間連結会計期間における減損処理額は、株式11百万円であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための合理的な基準は、中間連結決算日における時価の取得原価に対する下落率が30%以上の銘柄をすべて著しく下落したと判断しております。

(金銭の信託関係)

1. 満期保有目的の金銭の信託

該当事項はありません。

2. その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

(単位：百万円)

| | 平成27年度中間期末 | | | | |
|-----------|--------------|-------|----|---------------------------|----------------------------|
| | 中間連結貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 | うち中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | うち中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの |
| その他の金銭の信託 | 1,000 | 1,000 | — | — | — |

(注) 「うち中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち中間連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

(その他有価証券評価差額金)

中間連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

| | 平成27年度中間期末 |
|------------------------|------------|
| 評価差額 | 86,795 |
| その他有価証券 | 86,795 |
| (△) 繰延税金負債 | 26,747 |
| その他有価証券評価差額金（持分相当額調整前） | 60,048 |
| (△) 非支配株主持分相当額 | 330 |
| その他有価証券評価差額金 | 59,717 |

(注) 評価差額には、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合の構成資産であるその他有価証券に係る評価差額159百万円（益）を含めております。

連結情報

(デリバティブ取引関係)

- ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

| 区分 | 種類 | 平成27年度中間期末 | | | |
|---------|-----------|------------|--------|-----|------|
| | | 契約額等 | うち1年超 | 時価 | 評価損益 |
| 金融商品取引所 | 金利先物 | | | | |
| | 売建 | — | — | — | — |
| | 買建 | — | — | — | — |
| | 金利オプション | | | | |
| | 売建 | — | — | — | — |
| | 買建 | — | — | — | — |
| 店頭 | 金利先渡契約 | | | | |
| | 売建 | — | — | — | — |
| | 買建 | — | — | — | — |
| | 金利スワップ | | | | |
| | 受取固定・支払変動 | 10,659 | 10,659 | △22 | △22 |
| | 受取変動・支払固定 | 444 | 444 | △15 | △15 |
| | 受取変動・支払変動 | — | — | — | — |
| | 金利オプション | | | | |
| | 売建 | — | — | — | — |
| | 買建 | — | — | — | — |
| | その他 | | | | |
| 売建 | — | — | — | — | |
| 買建 | — | — | — | — | |
| 合計 | | | △37 | △37 | |

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

| 区分 | 種類 | 平成27年度中間期末 | | | |
|---------|---------|------------|--------|--------|--------|
| | | 契約額等 | うち1年超 | 時価 | 評価損益 |
| 金融商品取引所 | 通貨先物 | | | | |
| | 売建 | — | — | — | — |
| | 買建 | — | — | — | — |
| | 通貨オプション | | | | |
| | 売建 | — | — | — | — |
| | 買建 | — | — | — | — |
| 店頭 | 通貨スワップ | 84,991 | 60,913 | △1,638 | △1,638 |
| | 為替予約 | | | | |
| | 売建 | 34,839 | — | 360 | 360 |
| | 買建 | 22,302 | — | △98 | △98 |
| | 通貨オプション | | | | |
| | 売建 | 83,268 | 47,154 | △3,259 | 1,363 |
| | 買建 | 84,991 | 48,478 | 3,101 | △794 |
| | その他 | | | | |
| | 売建 | 90 | 28 | △27 | △27 |
| | 買建 | 59 | 18 | 30 | 30 |
| 合計 | | | △1,529 | △803 | |

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

該当事項はありません。

(5) 商品関連取引

該当事項はありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

| ヘッジ会計の方法 | 種類 | 平成27年度中間期末 | | | |
|----------|---------------------|-------------|--------|--------|------|
| | | 主なヘッジ対象 | 契約額等 | うち1年超 | 時価 |
| 原則的処理方法 | 金利スワップ 受取変動・支払固定 | その他有価証券(債券) | 60,000 | 60,000 | △466 |
| | | | | | |

(注) 1. 主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号平成14年2月13日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(2) 通貨関連取引

該当事項はありません。

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

- ストック・オプションにかかる当中間連結会計期間における費用計上額及び科目名
営業経費 23百万円
- ストック・オプションの内容

| | 平成27年ストック・オプション |
|--------------------------|------------------------------|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当行取締役 (社外取締役を除く) 10名 |
| 株式の種類別のストック・オプションの付与数(注) | 当行普通株式 96,000株 |
| 付与日 | 平成27年7月23日 |
| 権利確定条件 | 権利確定条件は定めていない |
| 対象勤務期間 | 対象勤務期間は定めていない |
| 権利行使期間 | 平成27年7月24日から 平成57年7月23日まで |
| 権利行使価格 | 1円 |
| 付与日における公正な評価単価 | 464円 |

(注) 株式数に換算して記載しております。

(資産除去債務関係)

当該資産除去債務の総額の増減

| | |
|-----------------|--------|
| 期首残高 | 196百万円 |
| 時の経過による調整額 | 1百万円 |
| 資産除去債務の履行による減少額 | △4百万円 |
| 当中間連結会計期間末残高 | 193百万円 |

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

| | 平成27年度中間期末 |
|-----------|------------|
| 1株当たり純資産額 | 899円00銭 |

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

| | 平成27年度中間期末 |
|-------------------------------|------------|
| 純資産の部の合計額 | 352,224百万円 |
| 純資産の部の合計額から控除する金額 | 16,298百万円 |
| うち新株予約権 | 83百万円 |
| うち非支配株主持分 | 16,214百万円 |
| 普通株式に係る中間期末の純資産額 | 335,926百万円 |
| 1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末の普通株式の数 | 373,664千株 |

2. 1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎

| | 平成27年度中間期 |
|---|-----------|
| (1) 1株当たり中間純利益金額 (算定上の基礎) | 27円16銭 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 10,151百万円 |
| 普通株主に帰属しない金額 | 一百万円 |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益 | 10,151百万円 |
| 普通株式の期中平均株式数 | 373,670千株 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり 中間純利益金額 (算定上の基礎) | 27円15銭 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益調整額 | 一百万円 |
| 普通株式増加数 | 235千株 |
| うち新株予約権 | 235千株 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要 | ——— |

(会計方針の変更)

(「企業結合に関する会計基準」等の適用)

「(会計方針の変更)」に記載のとおり、企業結合会計基準等を適用し、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っております。

この結果、当中間連結会計期間の1株当たり中間純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額が、それぞれ95銭及び94銭減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

連結情報

概要・概況等

十六グループの概要

当行及び当行の関係会社は、当行及び連結子会社6社等で構成され、銀行業務を中心に、リース業務などの金融サービスに係わる事業を行っております。

当行及び当行の関係会社の事業に係わる位置づけは次のとおりであります。

銀行業

当行の本店ほか157か店において、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、社債受託業務、金融等デリバティブ取引業務、附帯業務を営み、地域の金融パートナーとして、多様な商品・サービスを提供しております。銀行業務は当行及び当行の関係会社の中核業務と位置づけております。

十六ビジネスサービス株式会社においては、事務受託業務等の金融従属業務を営み、銀行業務の効率化に貢献しております。

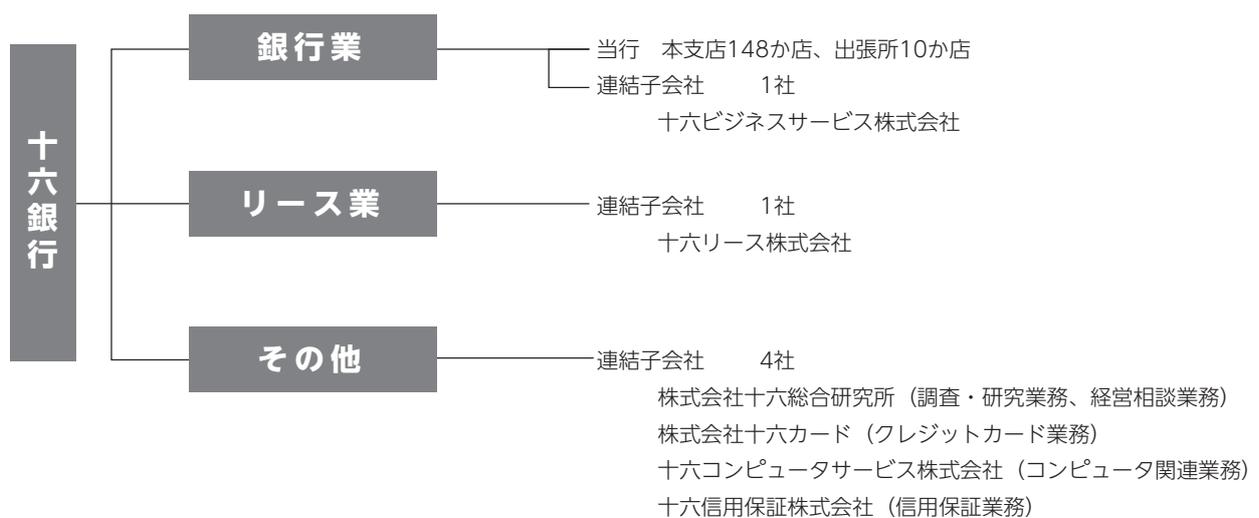
リース業

十六リース株式会社においては、リース業務を営み、地域のリースに関するニーズに積極的に対応しております。

その他

その他金融に関連する業務として、調査・研究業務、クレジットカード業務、コンピュータ関連業務、信用保証業務を営み、個人顧客、法人顧客それぞれの金融ニーズに積極的に対応しております。

事業系統図



(平成27年9月30日現在)

セグメント情報等

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当行グループは、当行及び連結子会社6社で構成され、銀行業務を中心にリース業務などの金融サービスに係る事業を行っております。なお、当行においては、一定の範囲における営業店をもってブロックを形成し、かかるブロックを単位として、業務運営を行う体制としておりますが、各ブロックの経済的特徴等が概ね類似していることなどから、1つの事業セグメントとして集約しております。

従って、当行グループは、サービスの特性と経営管理上の組織に基づく事業内容別のセグメントから構成されており、「銀行業」、「リース業」の2つを報告セグメントとしております。

「銀行業」は、当行の本店ほか支店等において、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、社債受託業務、金融等デリバティブ取引業務、附帯業務等を営み、地域の金融パートナーとして、多様な商品・サービスを提供しております。

「リース業」は、十六リース株式会社において、リース業務を営み、地域のリースに関するニーズに積極的にお応えしております。

2. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。セグメント間の取引は、第三者間取引価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

平成26年度中間期

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 合計 | 調整額 | 中間連結財務諸表計上額 |
|--------------------------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|---------|-------------|
| | 銀行業 | リース業 | 計 | | | | |
| 経常収益 | | | | | | | |
| 外部顧客に対する経常収益 | 47,767 | 10,029 | 57,797 | 2,585 | 60,382 | — | 60,382 |
| セグメント間の内部経常収益 | 157 | 146 | 303 | 435 | 739 | △739 | — |
| 計 | 47,925 | 10,175 | 58,100 | 3,021 | 61,122 | △739 | 60,382 |
| セグメント利益 | 14,518 | 727 | 15,246 | 1,013 | 16,259 | △8 | 16,251 |
| セグメント資産 | 5,885,808 | 62,693 | 5,948,501 | 36,017 | 5,984,519 | △46,717 | 5,937,801 |
| その他の項目 | | | | | | | |
| 減価償却費 | 1,580 | 175 | 1,755 | 29 | 1,785 | 67 | 1,852 |
| のれんの償却額 | 122 | — | 122 | — | 122 | — | 122 |
| 資金運用収益 | 34,114 | 32 | 34,146 | 199 | 34,346 | △90 | 34,255 |
| 資金調達費用 | 2,583 | 158 | 2,742 | 21 | 2,764 | △76 | 2,687 |
| 貸倒引当金繰入額 (△は貸倒引当金戻入益) | △671 | △3 | △674 | △166 | △841 | — | △841 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 1,581 | 288 | 1,869 | 29 | 1,899 | 68 | 1,968 |

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務、コンピュータ関連業務、信用保証業務等であります。

3. 調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

4. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

連結情報

平成27年度中間期

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 合計 | 調整額 | 中間連結財務諸表計上額 |
|--------------------------|-----------|--------|-----------|--------|-----------|---------|-------------|
| | 銀行業 | リース業 | 計 | | | | |
| 経常収益 | | | | | | | |
| 外部顧客に対する経常収益 | 46,704 | 10,297 | 57,001 | 2,563 | 59,564 | — | 59,564 |
| セグメント間の内部経常収益 | 179 | 157 | 336 | 512 | 848 | △848 | — |
| 計 | 46,883 | 10,454 | 57,337 | 3,075 | 60,413 | △848 | 59,564 |
| セグメント利益 | 13,337 | 805 | 14,142 | 842 | 14,985 | △44 | 14,940 |
| セグメント資産 | 6,092,347 | 63,443 | 6,155,790 | 38,616 | 6,194,406 | △48,507 | 6,145,899 |
| その他の項目 | | | | | | | |
| 減価償却費 | 1,754 | 202 | 1,957 | 32 | 1,990 | 76 | 2,066 |
| のれんの償却額 | 122 | — | 122 | — | 122 | — | 122 |
| 資金運用収益 | 31,651 | 36 | 31,687 | 170 | 31,858 | △79 | 31,779 |
| 資金調達費用 | 2,667 | 138 | 2,805 | 16 | 2,821 | △64 | 2,757 |
| 貸倒引当金繰入額 (△は貸倒引当金戻入益) | △983 | △104 | △1,088 | 1 | △1,087 | — | △1,087 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 2,916 | 205 | 3,121 | 34 | 3,155 | 93 | 3,249 |

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。
 2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務、コンピュータ関連業務、信用保証業務等であります。
 3. 調整額は、主にセグメント間取引消去であります。
 4. セグメント利益は、中間連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

関連情報

平成26年度中間期

1. サービスごとの情報

(単位：百万円)

| | 貸出業務 | 有価証券 投資業務 | リース業務 | その他 | 合計 |
|--------------|--------|--------------|-------|--------|--------|
| 外部顧客に対する経常収益 | 25,084 | 13,940 | 9,988 | 11,369 | 60,382 |

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

平成27年度中間期

1. サービスごとの情報

(単位：百万円)

| | 貸出業務 | 有価証券 投資業務 | リース業務 | その他 | 合計 |
|--------------|--------|--------------|--------|--------|--------|
| 外部顧客に対する経常収益 | 23,517 | 13,249 | 10,150 | 12,647 | 59,564 |

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が中間連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で中間連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

平成26年度中間期

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 合計 |
|---------|---------|------|----|-----|----|
| | 銀行業 | リース業 | 計 | | |
| 減 損 損 失 | 16 | — | 16 | — | 16 |

平成27年度中間期

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 合計 |
|---------|---------|------|----|-----|----|
| | 銀行業 | リース業 | 計 | | |
| 減 損 損 失 | 63 | — | 63 | — | 63 |

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

平成26年度中間期

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 合計 |
|---------------|---------|------|-------|-----|-------|
| | 銀行業 | リース業 | 計 | | |
| 当 中 間 期 償 却 額 | 122 | — | 122 | — | 122 |
| 当 中 間 期 末 残 高 | 3,975 | — | 3,975 | — | 3,975 |

平成27年度中間期

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 合計 |
|---------------|---------|------|-------|-----|-------|
| | 銀行業 | リース業 | 計 | | |
| 当 中 間 期 償 却 額 | 122 | — | 122 | — | 122 |
| 当 中 間 期 末 残 高 | 3,731 | — | 3,731 | — | 3,731 |

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

平成26年度中間期

当行が、平成26年7月1日付で、非支配株主が保有する十六リース株式会社の普通株式の一部を追加取得したことに伴い、当中間連結会計期間において、負ののれん発生益7百万円を計上しております。なお、この負ののれん発生益は特定の報告セグメントに係るものではないため、全社の利益(調整額)として認識しております。

平成27年度中間期

該当事項はありません。

連結情報

各種指標等

主要な経営指標等

(単位：百万円)

| | 平成25年度中間期 | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|--------------------------|-----------------|-----------------|-------------------------|-----------------|-----------------|
| 連結経常収益 | 56,302 | 60,382 | 59,564 | 111,214 | 127,535 |
| 連結経常利益 | 11,552 | 16,251 | 14,940 | 21,362 | 38,063 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 10,247 | 10,912 | 10,151 | | |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | | | 16,874 | 22,799 |
| 連結中間包括利益 | 13,016 | 19,237 | △6,280 | | |
| 連結包括利益 | | | | 20,346 | 55,382 |
| 連結純資産額 | 322,580 | 345,528 | 352,224 | 323,089 | 360,183 |
| 連結総資産額 | 5,739,532 | 5,937,801 | 6,145,899 | 5,745,954 | 6,088,503 |
| 1株当たり純資産額 | 757.28円 | 829.28円 | 899.00円 | 769.80円 | 920.80円 |
| 1株当たり中間純利益金額 | 27.12円 | 28.90円 | 27.16円 | | |
| 1株当たり当期純利益金額 | | | | 44.56円 | 60.47円 |
| 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額 | 23.59円 | 25.24円 | 27.15円 | | |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 | | | | 39.16円 | 53.56円 |
| 自己資本比率 | 5.2% | 5.5% | 5.4% | 5.3% | 5.6% |
| 連結自己資本比率 (国内基準) | 11.22% | 11.61% | 10.70% | 11.15% | 10.63% |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 52,287 | 94,922 | 44,090 | 46,213 | 171,710 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △173,726 | △13,598 | △89,602 | △271,781 | 168,540 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △9,391 | △1,432 | △1,701 | △10,817 | △32,947 |
| 現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 | 197,207 | 171,566 | 351,780 | 91,663 | 398,995 |
| 従業員数 (外、平均臨時従業員数) | 3,584人 (984) | 3,537人 (976) | 3,512人 (952) | 3,497人 (985) | 3,445人 (972) |

- (注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 2. 1株当たり情報の算定上の基礎は、「1株当たり情報」(21ページ)に記載しております。
 3. 自己資本比率は、((中間)期末純資産の部合計 - (中間)期末新株予約権 - (中間)期末非支配株主持分)を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。
 4. 連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。なお、平成25年度末より新しい自己資本比率規制(パーゼルⅢ)に基づき算出しております。
 5. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号平成25年9月13日)等を平成27年度中間期から適用し、「連結中間(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する中間(当期)純利益」としております。

連結リスク管理債権

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|------------|------------|----------------|
| 破綻先債権額 | 4,555 | 3,981 |
| 延滞債権額 | 102,923 | 98,079 |
| 3ヵ月以上延滞債権額 | 563 | 318 |
| 貸出条件緩和債権額 | 11,129 | 8,705 |
| 合計 | 119,172 | 111,083 |

財務の状況

中間財務諸表

中間貸借対照表

(単位：百万円)

| 科目 | 平成26年度中間期 平成26年9月30日 | 平成27年度中間期 平成27年9月30日 |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 【資産の部】 | | |
| 現金預け金 | 171,701 | 351,939 |
| コーポレート | 20,000 | 1,000 |
| 商品有価証券 | 924 | 1,522 |
| 金銭の信託 | 11,823 | 6,998 |
| 有価証券 | 1,784,721 | 1,731,291 |
| 貸出金 | 3,796,685 | 3,904,555 |
| 外国為替 | 9,042 | 4,853 |
| その他資産 | 31,360 | 22,366 |
| その他の資産 | 31,360 | 22,366 |
| 有形固定資産 | 60,853 | 61,682 |
| 無形固定資産 | 8,526 | 9,051 |
| 前払年金費用 | 4,493 | 5,292 |
| 支払承諾見返 | 21,752 | 20,777 |
| 貸倒引当金 | △34,484 | △32,274 |
| 資産の部合計 | 5,887,401 | 6,089,057 |

(単位：百万円)

| 科目 | 平成26年度中間期 平成26年9月30日 | 平成27年度中間期 平成27年9月30日 |
|----------------|-------------------------|-------------------------|
| 【負債の部】 | | |
| 預金 | 5,115,145 | 5,264,548 |
| 譲渡性預金 | 160,382 | 174,904 |
| コーポレートマネー | 7,114 | — |
| 売現先勘定 | — | 18,386 |
| 債券貸借取引受入担保金 | 162,153 | 192,154 |
| 借入金 | 36,381 | 25,459 |
| 外国為替 | 1,313 | 1,414 |
| 社債 | 10,000 | 10,000 |
| その他負債 | 20,567 | 26,492 |
| 未払法人税等 | 687 | 3,150 |
| リース債務 | 193 | 147 |
| 資産除去債務 | 194 | 193 |
| その他の負債 | 19,491 | 23,001 |
| 賞与引当金 | 1,583 | 1,688 |
| 退職給付引当金 | 6,023 | 6,198 |
| 睡眠預金払戻損失引当金 | 370 | 453 |
| 偶発損失引当金 | 1,012 | 900 |
| 繰延税金負債 | 14,796 | 16,333 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 8,682 | 7,834 |
| 支払承諾 | 21,752 | 20,777 |
| 負債の部合計 | 5,567,280 | 5,767,548 |
| 【純資産の部】 | | |
| 資本金 | 36,839 | 36,839 |
| 資本剰余金 | 47,819 | 47,816 |
| 資本準備金 | 47,815 | 47,815 |
| その他資本剰余金 | 4 | 1 |
| 利益剰余金 | 166,939 | 164,900 |
| 利益準備金 | 20,154 | 20,154 |
| その他利益剰余金 | 146,784 | 144,746 |
| 優先株式消却積立金 | 20,000 | — |
| 固定資産圧縮積立金 | — | 2 |
| 別途積立金 | 109,700 | 132,700 |
| 繰越利益剰余金 | 17,084 | 12,043 |
| 自己株式 | △1,532 | △1,547 |
| 株主資本合計 | 250,065 | 248,008 |
| その他有価証券評価差額金 | 56,413 | 59,373 |
| 繰延ヘッジ損益 | — | △319 |
| 土地再評価差額金 | 13,601 | 14,363 |
| 評価・換算差額等合計 | 70,015 | 73,416 |
| 新株予約権 | 40 | 83 |
| 純資産の部合計 | 320,121 | 321,509 |
| 負債及び純資産の部合計 | 5,887,401 | 6,089,057 |

中間損益計算書

(単位：百万円)

| 科目 | 平成26年度中間期 (平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで) | 平成27年度中間期 (平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで) |
|---------------|--|--|
| 経常収益 | 47,925 | 46,882 |
| 資金運用収益 | 34,114 | 31,651 |
| (うち貸出金利息) | 24,697 | 23,099 |
| (うち有価証券利息配当金) | 9,296 | 8,301 |
| 役員取引等収益 | 6,451 | 6,790 |
| その他業務収益 | 3,773 | 4,954 |
| その他経常収益 | 3,586 | 3,486 |
| 経常費用 | 33,429 | 33,561 |
| 資金調達費用 | 2,583 | 2,667 |
| (うち預金利息) | 2,076 | 2,078 |
| 役員取引等費用 | 2,869 | 3,008 |
| その他業務費用 | 802 | 1,224 |
| 営業経費 | 26,650 | 26,321 |
| その他経常費用 | 523 | 339 |
| 経常利益 | 14,496 | 13,321 |
| 特別利益 | 21 | 0 |
| 特別損失 | 45 | 148 |
| 税引前中間純利益 | 14,473 | 13,174 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 862 | 3,167 |
| 法人税等調整額 | 3,617 | 413 |
| 法人税等合計 | 4,480 | 3,580 |
| 中間純利益 | 9,992 | 9,594 |

業績ハイライト

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

連結情報

財務の状況

業務の状況

自己資本の充実の状況等について

財務の状況

中間株主資本等変動計算書

平成26年度中間期(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)

(単位:百万円)

| | 株主資本 | | | | | | | | |
|-----------------------|--------|--------|----------|---------|--------|-----------|---------|---------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | | 利益剰余金合計 |
| | | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 | | 優先株式消却積立金 | 別途積立金 | 繰越利益剰余金 | |
| 当期首残高 | 36,839 | 47,815 | 2 | 47,817 | 20,154 | 20,000 | 99,700 | 13,512 | 153,366 |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | | | | | | | 4,997 | 4,997 |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | 36,839 | 47,815 | 2 | 47,817 | 20,154 | 20,000 | 99,700 | 18,509 | 158,364 |
| 当中間期変動額 | | | | | | | | | |
| 別途積立金の積立 | | | | | | | 10,000 | △10,000 | — |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | △1,417 | △1,417 |
| 中間純利益 | | | | | | | | 9,992 | 9,992 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | | |
| 自己株式の処分 | | | 2 | 2 | | | | | |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | | | | | | | | | |
| 当中間期変動額合計 | — | — | 2 | 2 | — | — | 10,000 | △1,425 | 8,574 |
| 当中間期末残高 | 36,839 | 47,815 | 4 | 47,819 | 20,154 | 20,000 | 109,700 | 17,084 | 166,939 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | | 新株予約権 | 純資産合計 |
|-----------------------|--------|---------|------------------|----------|----------------|-------|---------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券 評価差額金 | 土地再評価差額金 | 評価・換算 差額等合計 | | |
| 当期首残高 | △1,531 | 236,491 | 48,769 | 13,601 | 62,371 | 26 | 298,889 |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | 4,997 | | | | | 4,997 |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | △1,531 | 241,488 | 48,769 | 13,601 | 62,371 | 26 | 303,886 |
| 当中間期変動額 | | | | | | | |
| 別途積立金の積立 | | | | | | | — |
| 剰余金の配当 | | △1,417 | | | | | △1,417 |
| 中間純利益 | | 9,992 | | | | | 9,992 |
| 自己株式の取得 | △7 | △7 | | | | | △7 |
| 自己株式の処分 | 6 | 8 | | | | | 8 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | | | 7,644 | — | 7,644 | 14 | 7,658 |
| 当中間期変動額合計 | △0 | 8,576 | 7,644 | — | 7,644 | 14 | 16,234 |
| 当中間期末残高 | △1,532 | 250,065 | 56,413 | 13,601 | 70,015 | 40 | 320,121 |

平成27年度中間期(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)

(単位:百万円)

| | 株主資本 | | | | | | | | |
|-----------------------|--------|--------|----------|---------|--------|-----------|---------|---------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | | 利益剰余金合計 |
| | | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 | | 固定資産圧縮積立金 | 別途積立金 | 繰越利益剰余金 | |
| 当期首残高 | 36,839 | 47,815 | — | 47,815 | 20,154 | — | 109,700 | 27,111 | 156,965 |
| 当中間期変動額 | | | | | | | | | |
| 固定資産圧縮積立金の積立 | | | | | | 2 | | △2 | — |
| 固定資産圧縮積立金の取崩 | | | | | | △0 | | 0 | — |
| 別途積立金の積立 | | | | | | | 23,000 | △23,000 | — |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | △1,681 | △1,681 |
| 中間純利益 | | | | | | | | 9,594 | 9,594 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | | |
| 自己株式の処分 | | | | | | | | | |
| 土地再評価差額金の取崩 | | | | | | | | 22 | 22 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | | | | | | | | | |
| 当中間期変動額合計 | — | — | 1 | 1 | — | 2 | 23,000 | △15,067 | 7,935 |
| 当中間期末残高 | 36,839 | 47,815 | 1 | 47,816 | 20,154 | 2 | 132,700 | 12,043 | 164,900 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | | | 新株予約権 | 純資産合計 |
|-----------------------|--------|---------|------------------|---------|--------------|----------------|-------|---------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 土地再評価 差額金 | 評価・換算 差額等合計 | | |
| 当期首残高 | △1,539 | 240,080 | 75,907 | — | 14,385 | 90,293 | 65 | 330,438 |
| 当中間期変動額 | | | | | | | | |
| 固定資産圧縮積立金の積立 | | | | | | | | — |
| 固定資産圧縮積立金の取崩 | | | | | | | | — |
| 別途積立金の積立 | | | | | | | | — |
| 剰余金の配当 | | △1,681 | | | | | | △1,681 |
| 中間純利益 | | 9,594 | | | | | | 9,594 |
| 自己株式の取得 | △12 | △12 | | | | | | △12 |
| 自己株式の処分 | 4 | 5 | | | | | | 5 |
| 土地再評価差額金の取崩 | | 22 | | | | | | 22 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | | | △16,534 | △319 | △22 | △16,876 | 18 | △16,857 |
| 当中間期変動額合計 | △8 | 7,928 | △16,534 | △319 | △22 | △16,876 | 18 | △8,929 |
| 当中間期末残高 | △1,547 | 248,008 | 59,373 | △319 | 14,363 | 73,416 | 83 | 321,509 |

当行は金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、四半期報告書に記載された中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。

注記事項（平成27年度中間期）

（重要な会計方針）

1. 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。

2. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として中間決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産の減価償却は、定率法を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物：15年～50年

その他：4年～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号平成24年7月4日）に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

また、破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額が一定額以上の債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当

該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産査定管理部署が査定結果を検証のうえ内部監査部署が監査を実施しております。

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日次から損益処理

(4) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止し、利益計上を行った預金の預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績等に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

(5) 偶発損失引当金

偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。

6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。

7. ヘッジ会計の方法

金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号平成14年2月13日）に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる有価証券等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の（残存）期間毎にブルーピングのうえ特定し評価しております。

8. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、中間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税（以下「消費税等」という。）の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は当中間会計期間の費用に計上しております。

財務の状況

(会計方針の変更)

(「企業結合に関する会計基準」等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、当中間会計期間から適用し、取得関連費用を発生した事業年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当中間会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する中間会計期間の中間財務諸表に反映させる方法に変更いたします。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当中間会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当中間会計期間の中間財務諸表に与える影響はありません。

(中間貸借対照表関係)

- 関係会社の株式又は出資金の総額

| | |
|-----|----------|
| 株式 | 7,824百万円 |
| 出資金 | 168百万円 |
- 無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

| | |
|--|-----------|
| | 30,184百万円 |
|--|-----------|
- 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

| | |
|--------|-----------|
| 破綻先債権額 | 3,103百万円 |
| 延滞債権額 | 96,648百万円 |

 なお、破綻先債権とは、元本又は利息の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- 貸出金のうち3ヵ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

| | |
|------------|--------|
| 3ヵ月以上延滞債権額 | 318百万円 |
|------------|--------|

 なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

| | |
|-----------|----------|
| 貸出条件緩和債権額 | 8,705百万円 |
|-----------|----------|

 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

| | |
|-----|------------|
| 合計額 | 108,775百万円 |
|-----|------------|

 なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

- 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号平成14年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

| | |
|--|-----------|
| | 26,621百万円 |
|--|-----------|

- 担保に供している資産は次のとおりであります。

| | |
|------------|------------|
| 担保に供している資産 | |
| 有価証券 | 327,397百万円 |
| その他の資産 | 42百万円 |
| 計 | 327,440百万円 |

担保資産に対応する債務

| | |
|-------------|------------|
| 預金 | 73,699百万円 |
| 売現先勘定 | 18,386百万円 |
| 債券貸借取引受入担保金 | 192,154百万円 |
| 借入金 | 14,459百万円 |

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物・オプション取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

| | |
|--------|-----------|
| 有価証券 | 63,905百万円 |
| その他の資産 | 11百万円 |

また、その他の資産には、先物取引差入証拠金及び保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

| | |
|-----------|----------|
| 先物取引差入証拠金 | 76百万円 |
| 保証金 | 1,921百万円 |

- 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

| | |
|-----------------------|--------------|
| 融資未実行残高 | 1,312,000百万円 |
| うち原契約期間が1年以内のもの | |
| (又は任意の時期に無条件で取消可能なもの) | 1,301,031百万円 |

上記融資未実行残高のうち総合口座取引に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

| | |
|--------------------|------------|
| うち総合口座取引に係る融資未実行残高 | 730,624百万円 |
|--------------------|------------|

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金が含まれております。

| | |
|----------|-----------|
| 劣後特約付借入金 | 11,000百万円 |
|----------|-----------|
- 社債は、劣後特約付社債であります。

| | |
|---------|-----------|
| 劣後特約付社債 | 10,000百万円 |
|---------|-----------|
- 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

| | |
|--|-----------|
| | 24,172百万円 |
|--|-----------|

(中間損益計算書関係)

減価償却実施額は次のとおりであります。

| | |
|--------|--------|
| 有形固定資産 | 957百万円 |
| 無形固定資産 | 797百万円 |

(有価証券関係)

子会社株式

該当事項はありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の中間貸借対照表計上額

(単位：百万円)

| | |
|------------|-------|
| 子会社株式及び出資金 | 7,987 |
|------------|-------|

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

財務の状況

資本・株式等

資本金・発行済株式総数の推移

| | 平成25年度中間期末 | 平成25年度末 | 平成26年度中間期末 | 平成26年度末 | 平成27年度中間期末 |
|-------------|------------|---------|------------|---------|------------|
| 資本金(百万円) | 36,839 | 36,839 | 36,839 | 36,839 | 36,839 |
| 発行済株式総数(千株) | | | | | |
| 普通株式 | 379,241 | 379,241 | 379,241 | 379,241 | 379,241 |
| 第1種優先株式 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | — | — |

株式の所有者別状況

(平成27年度中間期末現在)

| | 株式の状況(1単元の株式数1,000株) | | | | | | | | 単元未満株式の状況 |
|-----------|----------------------|---------|----------|---------|--------|------|--------|---------|------------|
| | 政府および地方公共団体 | 金融機関 | 金融商品取引業者 | その他の法人 | 外国法人等 | | 個人その他 | 計 | |
| | | | | | 個人以外 | 個人 | | | |
| 株主数(人) | — | 55 | 28 | 1,380 | 215 | 2 | 10,754 | 12,434 | — |
| 所有株式数(単元) | — | 131,345 | 2,569 | 112,167 | 52,451 | 28 | 76,734 | 375,294 | 3,947,348株 |
| 割合(%) | — | 35.01 | 0.68 | 29.89 | 13.97 | 0.01 | 20.44 | 100.00 | — |

大株主(上位10名)

(平成27年度中間期末現在)

| 株主名 | 所有株式数 | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合 |
|----------------------------|----------|---------------------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 25,739千株 | 6.78% |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 17,218 | 4.54 |
| 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 | 12,338 | 3.25 |
| 十六銀行従業員持株会 | 10,358 | 2.73 |
| フジパングループ本社株式会社 | 9,597 | 2.53 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 9,256 | 2.44 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 7,139 | 1.88 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 6,216 | 1.63 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 5,920 | 1.56 |
| CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY | 5,651 | 1.49 |
| 計 | 109,436 | 28.85 |

従業員の状況

(各期末現在)

| | 平成25年度中間期 | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|--------|-----------|-----------|-----------|--------|--------|
| 人員 | 3,464人 | 3,425人 | 3,408人 | 3,383人 | 3,350人 |
| 平均年齢 | 38才5か月 | 38才10か月 | 38才2か月 | 38才9か月 | 39才3か月 |
| 平均勤続年数 | 15年3か月 | 15年8か月 | 15年2か月 | 15年8か月 | 16年3か月 |
| 平均給与月額 | 380千円 | 386千円 | 384千円 | 382千円 | 387千円 |

(注) 1. 嘱託、臨時職員および海外の現地採用者は、上記人員には含まれておりません。
2. 平均給与額は、期末月の時間外手当を含む平均給与月額であり、賞与は含んでおりません。

各種指標等

主要な経営指標等

(単位：百万円)

| | 平成25年度中間期 | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|----------------------|-----------------|-----------------|-------------------------|-----------------|-----------------|
| 経常収益 | 44,147 | 47,925 | 46,882 | 86,858 | 102,762 |
| 経常利益 | 10,042 | 14,496 | 13,321 | 18,447 | 34,910 |
| 中間純利益 | 7,805 | 9,992 | 9,594 | | |
| 当期純利益 | | | | 12,353 | 21,487 |
| 純資産額 | 295,485 | 320,121 | 321,509 | 298,889 | 330,438 |
| 総資産額 | 5,689,422 | 5,887,401 | 6,089,057 | 5,692,678 | 6,032,976 |
| 預金残高 | 5,054,860 | 5,115,145 | 5,264,548 | 5,037,238 | 5,239,965 |
| 貸出金残高 | 3,662,255 | 3,796,685 | 3,904,555 | 3,751,534 | 3,865,663 |
| 有価証券残高 | 1,673,540 | 1,784,721 | 1,731,291 | 1,757,393 | 1,662,627 |
| 1株当たり配当額 | | | | | |
| 普通株式 | 3.50円 | 3.50円 | 3.50円 | 7.00円 | 8.00円 |
| 第1種優先株式 | 5.50円 | 5.50円 | —円 | 11.00円 | 5.50円 |
| 自己資本比率 | 5.1% | 5.4% | 5.2% | 5.2% | 5.4% |
| 単体自己資本比率 (国内基準) | 10.45% | 10.89% | 9.99% | 10.47% | 9.93% |
| 従業員数 (外、平均臨時従業員数) | 3,163人 (830) | 3,108人 (816) | 3,063人 (801) | 3,080人 (829) | 3,015人 (815) |

- (注) 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
 2. 平成26年度の1株当たり配当額（普通株式）8円には、旧岐阜銀行との経営統合完了記念配当1円を含んでおります。
 3. 自己資本比率は、((中間)期末純資産の部合計 - (中間)期末新株予約権)を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。
 4. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。なお、平成25年度末より新しい自己資本比率規制（バーゼルⅢ）に基づき算出しております。
 5. 従業員数は就業人員数を記載しております。

リスク管理債権

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|------------|------------|----------------|
| 破綻先債権額 | 3,633 | 3,103 |
| 延滞債権額 | 101,240 | 96,648 |
| 3ヵ月以上延滞債権額 | 563 | 318 |
| 貸出条件緩和債権額 | 11,129 | 8,705 |
| 合計 | 116,567 | 108,775 |

利益率

(単位：%)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|------------|-----------|--------------|
| 総資産経常利益率 | 0.50 | 0.44 |
| 自己資本経常利益率 | 11.39 | 10.46 |
| 総資産中間純利益率 | 0.34 | 0.31 |
| 自己資本中間純利益率 | 7.85 | 7.53 |

$$(注) 1. 総資産経常(中間純)利益率 = \frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{総資産(除く支払承諾見返)平均残高}} \times \frac{365}{\text{期中日数}} \times 100$$

$$2. 自己資本経常(中間純)利益率 = \frac{\text{経常(中間純)利益}}{\text{純資産勘定(除く新株予約権)平均残高}} \times \frac{365}{\text{期中日数}} \times 100$$

預貸率、預証率

(単位：%)

| | | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | |
|-----|------|-----------|--------|-------|--------------|---------------|--------------|
| | | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 |
| 預貸率 | 期末 | 72.18 | 35.59 | 71.96 | 71.83 | 62.26 | 71.78 |
| | 期中平均 | 71.80 | 31.26 | 71.56 | 70.82 | 58.87 | 70.76 |
| 預証率 | 期末 | 29.19 | 818.24 | 33.83 | 27.39 | 789.85 | 31.82 |
| | 期中平均 | 28.54 | 786.72 | 32.96 | 25.73 | 852.10 | 30.18 |

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

財務の状況

損益の状況

国内・国際業務部門別粗利益

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | |
|---------|-----------|--------|--------|-----------|--------|--------|
| | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 |
| 資金運用収支 | 29,713 | 1,822 | 31,535 | 27,164 | 1,822 | 28,987 |
| 役務取引等収支 | 3,482 | 99 | 3,582 | 3,683 | 98 | 3,782 |
| その他業務収支 | 2,323 | 646 | 2,970 | 603 | 3,127 | 3,730 |
| 業務粗利益 | 35,520 | 2,568 | 38,088 | 31,451 | 5,048 | 36,500 |
| 業務粗利益率 | 1.31% | 1.99% | 1.37% | 1.12% | 3.64% | 1.25% |

(注) 1. 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定等は国際業務部門に含めておりません。

$$2. \text{業務粗利益率} = \frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times \frac{365}{\text{期中日数}} \times 100$$

用語説明

業務純益

銀行の基本的な業務の成果を示す銀行固有の利益指標です。業務純益は、預金・貸出金・有価証券などの利息収支である「資金運用収支」（金銭の信託運用見合費用控除後）、各種手数料などの収支である「役務取引等収支」、債券や外国為替などの売買損益である「その他業務収支」の3項目を合計した「業務粗利益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「経費」を控除したものです。

業務純益

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|------|-----------|-----------|
| 業務純益 | 11,501 | 10,178 |

利回り、利鞘

(単位：%)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | |
|---------|-----------|--------|------|-----------|--------|------|
| | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 |
| 資金運用利回り | 1.19 | 1.58 | 1.22 | 1.05 | 1.51 | 1.08 |
| 資金調達原価 | 1.07 | 0.77 | 1.07 | 1.02 | 0.77 | 1.01 |
| 総資金利鞘 | 0.12 | 0.81 | 0.15 | 0.03 | 0.74 | 0.07 |

資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | | |
|--------|-----------|-----------|--------|-----------|-----------|--------|-------|
| | 平均残高 | 利息 | 利回り | 平均残高 | 利息 | 利回り | |
| 国内業務部門 | 資金運用勘定 | 5,372,474 | 32,132 | 1.19% | 5,585,185 | 29,590 | 1.05% |
| | うち貸出金 | 3,739,977 | 24,667 | 1.31% | 3,832,821 | 23,029 | 1.19% |
| | うち有価証券 | 1,486,740 | 7,313 | 0.98% | 1,392,932 | 6,309 | 0.90% |
| | 資金調達勘定 | 5,255,189 | 2,418 | 0.09% | 5,452,289 | 2,426 | 0.08% |
| | うち預金 | 5,050,906 | 2,037 | 0.08% | 5,222,827 | 2,022 | 0.07% |
| | うち譲渡性預金 | 157,621 | 108 | 0.13% | 188,768 | 122 | 0.12% |
| 国際業務部門 | 資金運用勘定 | 256,869 | 2,043 | 1.58% | 276,181 | 2,093 | 1.51% |
| | うち貸出金 | 9,556 | 29 | 0.62% | 17,247 | 70 | 0.81% |
| | うち有価証券 | 240,443 | 1,978 | 1.64% | 249,642 | 1,986 | 1.58% |
| | 資金調達勘定 | 257,760 | 221 | 0.17% | 280,724 | 270 | 0.19% |
| | うち預金 | 30,562 | 38 | 0.25% | 29,297 | 56 | 0.38% |
| | うち譲渡性預金 | — | — | — | — | — | — |

受取・支払利息の増減

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | | |
|--------|-----------|---------|--------|-----------|---------|--------|--------|
| | 残高による増減 | 利率による増減 | 純増減 | 残高による増減 | 利率による増減 | 純増減 | |
| 国内業務部門 | 受取利息 | 1,075 | △1,727 | △652 | 1,232 | △3,774 | △2,541 |
| | うち貸出金 | 1,231 | △2,624 | △1,392 | 599 | △2,237 | △1,637 |
| | うち有価証券 | 334 | 430 | 765 | △444 | △559 | △1,003 |
| | 支払利息 | 90 | △289 | △198 | 88 | △80 | 7 |
| | うち預金 | 54 | △286 | △231 | 64 | △80 | △15 |
| | うち譲渡性預金 | 42 | △7 | 34 | 20 | △5 | 14 |
| 国際業務部門 | 受取利息 | 862 | △26 | 835 | 148 | △98 | 50 |
| | うち貸出金 | 25 | 0 | 26 | 29 | 10 | 40 |
| | うち有価証券 | 817 | △9 | 807 | 74 | △66 | 7 |
| | 支払利息 | 101 | △43 | 57 | 20 | 28 | 49 |
| | うち預金 | △3 | △8 | △11 | △1 | 19 | 18 |
| | うち譲渡性預金 | — | — | — | — | — | — |

役務取引の状況

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | |
|-----------|-----------|--------|-------|-----------|--------|-------|
| | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 |
| 役務取引等収益 | 6,305 | 146 | 6,451 | 6,645 | 145 | 6,790 |
| うち預金・貸出業務 | 928 | — | 928 | 980 | — | 980 |
| うち為替業務 | 1,934 | 121 | 2,055 | 1,958 | 122 | 2,080 |
| うち証券関連業務 | 1,416 | — | 1,416 | 1,242 | — | 1,242 |
| 役務取引等費用 | 2,822 | 46 | 2,869 | 2,961 | 46 | 3,008 |
| うち為替業務 | 415 | 36 | 451 | 428 | 41 | 470 |

その他業務利益の内訳

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|--------------|-----------|-----------|
| 国内業務部門 | 2,323 | 603 |
| うち商品有価証券売買損益 | △8 | 21 |
| うち国債等債券関係損益 | 2,434 | 448 |
| うち金融派生商品損益 | △102 | 132 |
| うちその他 | 0 | 0 |
| 国際業務部門 | 646 | 3,127 |
| うち外国為替売買損益 | 381 | 589 |
| うち国債等債券関係損益 | 310 | 2,565 |
| うち金融派生商品損益 | △44 | △27 |
| うちその他 | — | — |
| 合計 | 2,970 | 3,730 |

営業経費の内訳

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|-----------|
| 給料・手当 | 11,429 | 11,515 |
| 退職給付費用 | 820 | 709 |
| 福利厚生費 | 129 | 105 |
| 減価償却費 | 1,580 | 1,754 |
| 土地建物機械賃借料 | 754 | 837 |
| 営繕費 | 85 | 114 |
| 消耗品費 | 283 | 391 |
| 給水光熱費 | 241 | 244 |
| 旅費 | 41 | 43 |
| 通信費 | 469 | 474 |
| 広告宣伝費 | 404 | 447 |
| 租税公課 | 1,468 | 1,652 |
| その他 | 8,942 | 8,030 |
| 合計 | 26,650 | 26,321 |

業務の状況

預金

預金残高

(単位：百万円、%)

| | | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | |
|--------|------|----------------------|-------------------|----------------------|----------------------|-------------------|----------------------|
| | | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 |
| 流動性預金 | 期末残高 | 2,424,365 (47.7) | — | 2,424,365 (47.4) | 2,569,486 (49.1) | — | 2,569,486 (48.8) |
| | 平均残高 | 2,413,160 (47.8) | — | 2,413,160 (47.5) | 2,559,262 (49.0) | — | 2,559,262 (48.7) |
| 定期性預金 | 期末残高 | 2,601,023 (51.2) | — | 2,601,023 (50.8) | 2,613,909 (50.0) | — | 2,613,909 (49.7) |
| | 平均残高 | 2,611,417 (51.7) | — | 2,611,417 (51.4) | 2,634,589 (50.4) | — | 2,634,589 (50.2) |
| うち固定預金 | 期末残高 | 2,600,876 (51.1) | — | 2,600,876 (50.8) | 2,613,776 (49.9) | — | 2,613,776 (49.6) |
| | 平均残高 | 2,611,266 (51.6) | — | 2,611,266 (51.3) | 2,634,454 (50.4) | — | 2,634,454 (50.1) |
| うち変動預金 | 期末残高 | 146 (0.0) | — | 146 (0.0) | 132 (0.0) | — | 132 (0.0) |
| | 平均残高 | 151 (0.0) | — | 151 (0.0) | 135 (0.0) | — | 135 (0.0) |
| その他 | 期末残高 | 58,798 (1.1) | 30,958 (100.0) | 89,757 (1.8) | 49,547 (0.9) | 31,606 (100.0) | 81,153 (1.5) |
| | 平均残高 | 26,329 (0.5) | 30,562 (100.0) | 56,891 (1.1) | 28,975 (0.6) | 29,297 (100.0) | 58,272 (1.1) |
| 合計 | 期末残高 | 5,084,186 (100.0) | 30,958 (100.0) | 5,115,145 (100.0) | 5,232,942 (100.0) | 31,606 (100.0) | 5,264,548 (100.0) |
| | 平均残高 | 5,050,906 (100.0) | 30,562 (100.0) | 5,081,469 (100.0) | 5,222,827 (100.0) | 29,297 (100.0) | 5,252,124 (100.0) |
| 譲渡性預金 | 期末残高 | 160,382 | — | 160,382 | 174,904 | — | 174,904 |
| | 平均残高 | 157,621 | — | 157,621 | 188,768 | — | 188,768 |
| 総合計 | 期末残高 | 5,244,568 | 30,958 | 5,275,527 | 5,407,847 | 31,606 | 5,439,453 |
| | 平均残高 | 5,208,528 | 30,562 | 5,239,090 | 5,411,596 | 29,297 | 5,440,893 |

(注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋通知預金＋貯蓄預金
 2. 定期性預金＝定期預金
 3. () 内は構成比であります。

預金者別残高

(単位：百万円、%)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|---------|---------------------|-----------------------------------|
| 個人預金 | 3,506,619 (68.6) | 3,601,887 (68.4) |
| 法人預金その他 | 1,608,525 (31.4) | 1,662,661 (31.6) |
| 合計 | 5,115,145 | 5,264,548 |

(注) 1. 法人預金その他とは、法人預金、公金預金、金融機関預金であります。

2. () 内は構成比であります。

財形預金残高

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|------|------------|---------------|
| 一般財形 | 21,196 | 21,066 |
| 財形年金 | 5,717 | 5,255 |
| 財形住宅 | 1,593 | 1,482 |
| 合計 | 28,507 | 27,803 |

定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | | | | 平成27年度中間期末 | | | |
|------------|------------|------------|------------|-------|------------|------------|------------|-------|
| | 定期預金 | うち固定金利定期預金 | うち変動金利定期預金 | うちその他 | 定期預金 | うち固定金利定期預金 | うち変動金利定期預金 | うちその他 |
| 3か月未満 | 805,625 | 805,574 | 50 | — | 793,119 | 793,100 | 19 | — |
| 3か月以上6か月未満 | 379,465 | 379,460 | 5 | — | 363,688 | 363,670 | 17 | — |
| 6か月以上1年未満 | 706,981 | 706,947 | 33 | — | 738,383 | 738,372 | 10 | — |
| 1年以上2年未満 | 310,903 | 310,851 | 51 | — | 297,478 | 297,469 | 8 | — |
| 2年以上3年未満 | 298,449 | 298,443 | 6 | — | 262,661 | 262,586 | 75 | — |
| 3年以上 | 99,598 | 99,598 | — | — | 158,577 | 158,577 | — | — |
| 合計 | 2,601,023 | 2,600,876 | 146 | — | 2,613,909 | 2,613,776 | 132 | — |

貸出金

貸出金残高

(単位：百万円、%)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | | |
|------|-----------|----------------------|-------------------|----------------------|----------------------|-------------------|----------------------|
| | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 | |
| 手形貸付 | 期末残高 | 157,402 (4.1) | 533 (4.8) | 157,936 (4.1) | 149,471 (3.8) | 1,283 (6.5) | 150,755 (3.9) |
| | 平均残高 | 156,540 (4.2) | 514 (5.4) | 157,055 (4.2) | 148,198 (3.9) | 1,193 (6.9) | 149,391 (3.9) |
| 証書貸付 | 期末残高 | 3,186,361 (84.2) | 10,486 (95.2) | 3,196,847 (84.2) | 3,291,590 (84.7) | 18,397 (93.5) | 3,309,987 (84.8) |
| | 平均残高 | 3,168,110 (84.7) | 9,041 (94.6) | 3,177,151 (84.7) | 3,271,103 (85.3) | 16,054 (93.1) | 3,287,157 (85.4) |
| 当座貸越 | 期末残高 | 416,124 (11.0) | — | 416,124 (11.0) | 418,391 (10.8) | — | 418,391 (10.7) |
| | 平均残高 | 388,129 (10.4) | — | 388,129 (10.4) | 387,736 (10.1) | — | 387,736 (10.1) |
| 割引手形 | 期末残高 | 25,777 (0.7) | — | 25,777 (0.7) | 25,420 (0.7) | — | 25,420 (0.6) |
| | 平均残高 | 27,196 (0.7) | — | 27,196 (0.7) | 25,783 (0.7) | — | 25,783 (0.6) |
| 合計 | 期末残高 | 3,785,665 (100.0) | 11,020 (100.0) | 3,796,685 (100.0) | 3,884,874 (100.0) | 19,680 (100.0) | 3,904,555 (100.0) |
| | 平均残高 | 3,739,977 (100.0) | 9,556 (100.0) | 3,749,533 (100.0) | 3,832,821 (100.0) | 17,247 (100.0) | 3,850,069 (100.0) |

(注) () 内は構成比であります。

業務の状況

貸出金業種別内訳

(単位：百万円、%)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|----------------------------|----------------------|----------------------|
| 製 造 業 | 654,708 (17.2) | 675,072 (17.3) |
| 農 業、 林 業 | 5,341 (0.1) | 4,933 (0.1) |
| 漁 業 | 736 (0.0) | 1,326 (0.0) |
| 鉱 業、 採 石 業、 砂 利 採 取 業 | 5,266 (0.1) | 6,510 (0.2) |
| 建 設 業 | 137,845 (3.6) | 137,717 (3.5) |
| 電 気・ガ ス・熱 供 給・水 道 業 | 42,134 (1.1) | 43,891 (1.1) |
| 情 報 通 信 業 | 27,663 (0.7) | 27,094 (0.7) |
| 運 輸 業、 郵 便 業 | 109,943 (2.9) | 105,767 (2.7) |
| 卸 売 業、 小 売 業 | 366,924 (9.7) | 364,905 (9.4) |
| 金 融 業、 保 険 業 | 149,982 (4.0) | 145,102 (3.7) |
| 不 動 産 業、 物 品 賃 貸 業 | 483,378 (12.7) | 496,588 (12.7) |
| 学 術 研 究、 専 門・技 術 サ ー ビ ス 業 | 20,161 (0.5) | 20,900 (0.5) |
| 宿 泊 業 | 22,135 (0.6) | 21,422 (0.6) |
| 飲 食 業 | 20,794 (0.6) | 19,002 (0.5) |
| 生 活 関 連 サ ー ビ ス 業、 娯 楽 業 | 59,580 (1.6) | 50,420 (1.3) |
| 教 育、 学 習 支 援 業 | 6,694 (0.2) | 5,643 (0.1) |
| 医 療・福 祉 | 94,497 (2.5) | 93,298 (2.4) |
| そ の 他 の サ ー ビ ス | 33,757 (0.9) | 33,767 (0.9) |
| 地 方 公 共 団 体 | 402,378 (10.6) | 397,427 (10.2) |
| そ の 他 | 1,152,769 (30.4) | 1,253,771 (32.1) |
| 計 | 3,796,685 (100.0) | 3,904,555 (100.0) |
| 特 別 国 際 金 融 取 引 勘 定 分 | — | — |
| 合 計 | 3,796,685 | 3,904,555 |

(注) () 内は構成比であります。

貸出金使途別内訳

(単位：百万円、%)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|---------|----------------------|----------------------|
| 設 備 資 金 | 1,742,188 (45.9) | 1,851,593 (47.4) |
| 運 転 資 金 | 2,054,497 (54.1) | 2,052,962 (52.6) |
| 合 計 | 3,796,685 (100.0) | 3,904,555 (100.0) |

(注) () 内は構成比であります。

貸出金の担保別内訳

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|---------|------------|------------|
| 有 価 証 券 | 13,186 | 10,490 |
| 債 権 | 39,039 | 37,493 |
| 商 品 | — | — |
| 不 動 産 | 544,362 | 538,352 |
| そ の 他 | 27 | 27 |
| 計 | 596,614 | 586,362 |
| 保 証 | 1,710,986 | 1,850,849 |
| 信 用 | 1,489,085 | 1,467,343 |
| 合 計 | 3,796,685 | 3,904,555 |

中小企業等に対する貸出金

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|-----------|------------|------------|
| 貸 出 金 残 高 | 2,736,635 | 2,864,486 |
| 総貸出に占める割合 | 72.07% | 73.36% |

(注) 1. 貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。

2. 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

貸出金の残存期間別残高

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | | | 平成27年度中間期末 | | |
|------------|------------|---------|---------|------------|---------|---------|
| | 貸出金 | うち変動金利 | うち固定金利 | 貸出金 | うち変動金利 | うち固定金利 |
| 1年以下 | 642,835 | | | 627,329 | | |
| 1年超3年以下 | 627,977 | 330,944 | 297,032 | 619,549 | 350,692 | 268,856 |
| 3年超5年以下 | 448,147 | 246,354 | 201,793 | 477,937 | 248,384 | 229,552 |
| 5年超7年以下 | 289,842 | 147,872 | 141,970 | 354,516 | 175,347 | 179,169 |
| 7年超 | 1,365,582 | 618,233 | 747,349 | 1,406,832 | 682,399 | 724,432 |
| 期間の定めのないもの | 422,298 | 422,298 | — | 418,391 | 418,391 | — |
| 合計 | 3,796,685 | | | 3,904,555 | | |

(注) 残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区分をしておりません。

支払承諾の残高内訳

(単位：口、百万円)

| | 平成26年度中間期末 | | 平成27年度中間期末 | |
|------|------------|--------|------------|--------|
| | 口数 | 金額 | 口数 | 金額 |
| 手形引受 | — | — | — | — |
| 信用状 | 662 | 6,555 | 581 | 6,319 |
| 保証 | 891 | 15,196 | 879 | 14,458 |
| 合計 | 1,553 | 21,752 | 1,460 | 20,777 |

支払承諾見返の担保別内訳

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|------|------------|------------|
| 有価証券 | 112 | 30 |
| 債権 | 90 | 69 |
| 商品 | — | — |
| 不動産 | 432 | 435 |
| その他 | — | — |
| 計 | 634 | 534 |
| 保証 | 6,950 | 6,366 |
| 信用 | 14,168 | 13,877 |
| 合計 | 21,752 | 20,777 |

消費者ローン残高

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|--------|------------|------------|
| 住宅ローン | 1,235,074 | 1,365,703 |
| その他ローン | 24,896 | 23,762 |
| 合計 | 1,259,970 | 1,389,465 |

貸出金償却額

平成26年度中間期、平成27年度中間期ともに、該当事項はありません。

特定海外債権残高

平成26年度中間期末、平成27年度中間期末ともに、該当事項はありません。

貸倒引当金の期末残高および期中の増減額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | | | 平成27年度中間期 | | | | | 摘要 |
|-------------|-----------|--------|-------|---------|--------|-----------|--------|-------|---------|--------|-----------|
| | 期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | | 期末残高 | 期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | | 期末残高 | |
| | | | 目的使用 | その他 | | | | 目的使用 | その他 | | |
| 一般貸倒引当金 | 8,447 | 7,759 | — | *8,447 | 7,759 | 6,926 | 5,806 | — | *6,926 | 5,806 | *洗替による取崩額 |
| 個別貸倒引当金 | 29,212 | 26,724 | 2,504 | *26,707 | 26,724 | 28,217 | 26,468 | 1,886 | *26,331 | 26,468 | *洗替による取崩額 |
| うち非居住者向け債権分 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 特定海外債権引当勘定 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 合計 | 37,660 | 34,484 | 2,504 | 35,155 | 34,484 | 35,144 | 32,274 | 1,886 | 33,258 | 32,274 | |

業務の状況

不良債権残高

単体自己査定結果・金融再生法開示債権・リスク管理債権（平成27年度中間期末）

（単位：億円）

| 自己査定結果 対象：総与信 | | | | | 金融再生法開示債権および保全状況 対象：総与信 ※要管理債権は貸出金のみ | | | | リスク管理債権 対象：貸出金 | |
|--------------------------|--------------------------|-------|-------|------|--|---|-----|--|------------------------|-----------|
| 区分 与信残高 | 分類 | | | | 区分 与信残高 | 担保・保証 による保全 | 引当額 | 保全率 | 区分 | 貸出金 残高 |
| | 非分類 | Ⅱ分類 | Ⅲ分類 | Ⅳ分類 | | | | | | |
| 破綻先 31 <7> | 27 | 4 | — | — | 破産更生債権 及びこれらに 準ずる債権 142 <68> | 58 | 83 | 100.0% | 破綻先債権 31 <6> | |
| 実質破綻先 110 <61> | 85 | 25 | — | — | 危険債権 859 | 525 | 181 | 82.2% | 延滞債権 966 <918> | |
| 破綻懸念先 859 | 495 | 211 | 152 | | 要管理債権※ 90 | 31 | 5 | 39.8% | 3ヵ月以上延滞債権 3 | |
| 要 注 意 先 | 要管理先 107 | 24 | 82 | | 小計 1,091 <1,017> | | 270 | 81.0% | 貸出条件緩和債権 87 | |
| | 要管理先以外 の要注意先 4,729 | 1,709 | 3,020 | | 正常債権 38,457 | 金融再生法開示債権（小計）の 総与信に占める割合 <>内は、部分直接償却実施後 2.7% <2.5%> | | リスク管理債権の 総貸出金に占める割合 <>内は、部分直接償却実施後 2.7% <2.6%> | | |
| 正常先 33,712 | 33,712 | | | | 合計 39,548 <39,474> | | | | 合計 1,087 <1,015> | |
| 合計 39,548 <39,474> | 36,052 | 3,343 | 152 | — | | | | | | |
| | | | (191) | (74) | | | | | | |

- (注) 1. 記載金額は、「自己査定結果」及び「金融再生法開示債権および保全状況」は単位未満を四捨五入し、「リスク管理債権」は単位未満を切り捨てて表示しております。また、比率は小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。
 2. 総与信＝貸出金＋支払承諾見返＋自行保証付私募債＋外国為替＋貸出金に準ずる仮払金＋未収利息
 3. 「自己査定結果」の分類額は引当後の計数で、()内は分類額に対する引当額であります。
 4. 当行は部分直接償却を実施しておりませんが、実施した場合の開示債権額を< >内に記載しております。

有価証券

有価証券残高

(単位：百万円、%)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | |
|--------|-----------|----------------------|--------------------|----------------------|----------------------|--------------------|
| | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 | 国内業務部門 | 国際業務部門 | 合計 |
| 国債 | 期末残高 | 583,796 (38.1) | — (32.7) | 583,796 (46.9) | — (40.1) | 695,128 (40.1) |
| | 平均残高 | 536,017 (36.1) | — (31.0) | 536,017 (48.2) | — (40.9) | 671,438 (40.9) |
| 地方債 | 期末残高 | 333,320 (21.8) | — (18.7) | 333,320 (14.0) | — (12.0) | 207,044 (12.0) |
| | 平均残高 | 377,819 (25.4) | — (21.9) | 377,819 (15.3) | — (13.0) | 213,072 (13.0) |
| 短期社債 | 期末残高 | — | — | — | — | — |
| | 平均残高 | — | — | — | — | — |
| 社債 | 期末残高 | 453,970 (29.6) | — (25.4) | 453,970 (23.8) | — (20.4) | 352,680 (20.4) |
| | 平均残高 | 469,075 (31.5) | — (27.1) | 469,075 (26.0) | — (22.0) | 361,777 (22.0) |
| 株式 | 期末残高 | 133,993 (8.8) | — (7.5) | 133,993 (9.9) | — (8.4) | 146,256 (8.4) |
| | 平均残高 | 77,231 (5.2) | — (4.5) | 77,231 (5.5) | — (4.7) | 76,841 (4.7) |
| その他の証券 | 期末残高 | 26,321 (1.7) | 253,319 (100.0) | 279,641 (15.7) | 80,538 (5.4) | 249,642 (100.0) |
| | 平均残高 | 26,597 (1.8) | 240,443 (100.0) | 267,040 (15.5) | 69,802 (5.0) | 249,642 (100.0) |
| うち外国債券 | 期末残高 | — | 249,090 (98.3) | 249,090 (13.9) | — | 248,741 (99.6) |
| | 平均残高 | — | 236,320 (98.2) | 236,320 (13.6) | — | 248,643 (99.5) |
| うち外国株式 | 期末残高 | — | — | — | — | — |
| | 平均残高 | — | — | — | — | — |
| 合計 | 期末残高 | 1,531,401 (100.0) | 253,319 (100.0) | 1,784,721 (100.0) | 1,481,648 (100.0) | 249,642 (100.0) |
| | 平均残高 | 1,486,740 (100.0) | 240,443 (100.0) | 1,727,184 (100.0) | 1,392,932 (100.0) | 249,642 (100.0) |

(注) () 内は構成比であります。

公共債引受額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-------|-----------|-----------|
| 国債 | — | — |
| 地方債 | 41,670 | 37,785 |
| 政府保証債 | 2,608 | 1,514 |
| 合計 | 44,278 | 39,299 |

公共債および証券投資信託の窓販実績

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|--------|-----------|-----------|
| 国債 | 1,397 | 1,389 |
| 地方債 | — | — |
| 政府保証債 | — | — |
| 合計 | 1,397 | 1,389 |
| 証券投資信託 | 37,695 | 33,034 |

業績ハイライト

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

連結情報

財務の状況

業務の状況

自己資本の充実の状況等について

業務の状況

公共債ディーリング実績

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|------------|-----------|-------|-----------|-------|
| | 売買高 | 平均残高 | 売買高 | 平均残高 |
| 商品国債 | 24,292 | 954 | 43,445 | 1,566 |
| 商品地方債 | 7,200 | 431 | 7,200 | 190 |
| 商品政府保証債 | — | — | — | — |
| その他の商品有価証券 | — | — | — | — |
| 合計 | 31,492 | 1,386 | 50,645 | 1,756 |

有価証券の残存期間別残高

(単位：百万円)

| 種類 | 期間別 | 1年以下 | 1年超 3年以下 | 3年超 5年以下 | 5年超 7年以下 | 7年超 10年以下 | 10年超 | 期間の定め のないもの | 合計 |
|--------|------------|---------|-------------|-------------|-------------|--------------|---------|----------------|---------|
| | | 国債 | 平成26年度中間期末 | 41,396 | 106,714 | 196,974 | 153,695 | 70,598 | |
| | 平成27年度中間期末 | 46,934 | 57,808 | 307,802 | 111,296 | 67,084 | 104,203 | — | 695,128 |
| 地方債 | 平成26年度中間期末 | 61,709 | 86,227 | 70,759 | 73,538 | 41,085 | — | — | 333,320 |
| | 平成27年度中間期末 | 36,536 | 54,468 | 77,823 | 8,315 | 29,900 | — | — | 207,044 |
| 短期社債 | 平成26年度中間期末 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 平成27年度中間期末 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 社債 | 平成26年度中間期末 | 115,150 | 109,495 | 134,078 | 23,950 | 12,385 | 58,909 | — | 453,970 |
| | 平成27年度中間期末 | 66,061 | 138,974 | 59,560 | 18,550 | 7,313 | 62,221 | — | 352,680 |
| 株式 | 平成26年度中間期末 | — | — | — | — | — | — | 133,993 | 133,993 |
| | 平成27年度中間期末 | — | — | — | — | — | — | 146,256 | 146,256 |
| その他の証券 | 平成26年度中間期末 | 12,318 | 72,030 | 69,074 | 2,263 | 67,859 | 45,037 | 11,058 | 279,641 |
| | 平成27年度中間期末 | 20,445 | 21,129 | 40,866 | 28,840 | 160,057 | 24,600 | 34,238 | 330,181 |
| うち外国債券 | 平成26年度中間期末 | 10,392 | 67,199 | 63,603 | 970 | 65,107 | 41,816 | — | 249,090 |
| | 平成27年度中間期末 | 18,370 | 10,779 | 30,752 | 26,143 | 140,109 | 22,586 | — | 248,741 |
| うち外国株式 | 平成26年度中間期末 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 平成27年度中間期末 | — | — | — | — | — | — | — | — |

時価情報

有価証券関係

中間貸借対照表の「有価証券」について記載しております。

1.満期保有目的の債券

(単位：百万円)

| | 種 類 | 平成26年度中間期末 | | | 平成27年度中間期末 | | |
|----------------------|-------|------------|--------|-----|------------|--------|-----|
| | | 中間貸借対照表計上額 | 時 価 | 差 額 | 中間貸借対照表計上額 | 時 価 | 差 額 |
| 時価が中間貸借対照表計上額を超えるもの | 債 券 | 25,635 | 25,881 | 246 | 20,777 | 20,998 | 220 |
| | 国 債 | — | — | — | — | — | — |
| | 地 方 債 | — | — | — | — | — | — |
| | 短期社債 | — | — | — | — | — | — |
| | 社 債 | 25,635 | 25,881 | 246 | 20,777 | 20,998 | 220 |
| | そ の 他 | — | — | — | — | — | — |
| | 小 計 | 25,635 | 25,881 | 246 | 20,777 | 20,998 | 220 |
| 時価が中間貸借対照表計上額を超えないもの | 債 券 | 4,959 | 4,909 | △50 | 3,312 | 3,279 | △32 |
| | 国 債 | — | — | — | — | — | — |
| | 地 方 債 | — | — | — | — | — | — |
| | 短期社債 | — | — | — | — | — | — |
| | 社 債 | 4,959 | 4,909 | △50 | 3,312 | 3,279 | △32 |
| | そ の 他 | — | — | — | — | — | — |
| | 小 計 | 4,959 | 4,909 | △50 | 3,312 | 3,279 | △32 |
| 合 計 | | 30,594 | 30,790 | 195 | 24,089 | 24,278 | 188 |

2.子会社株式

平成26年度中間期末、平成27年度中間期末ともに、該当事項はありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|------------|------------|------------|
| | 中間貸借対照表計上額 | 中間貸借対照表計上額 |
| 子会社株式及び出資金 | 8,067 | 7,987 |

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

業務の状況

3. その他有価証券

(単位：百万円)

| | 種 類 | 平成26年度中間期末 | | | 平成27年度中間期末 | | |
|------------------------|-----------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|--------|
| | | 中間貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差 額 | 中間貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差 額 |
| 中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの | 株 式 | 111,677 | 52,441 | 59,236 | 122,123 | 51,629 | 70,493 |
| | 債 券 | 1,231,425 | 1,207,553 | 23,872 | 1,142,405 | 1,123,190 | 19,215 |
| | 国 債 | 516,099 | 504,789 | 11,309 | 633,057 | 621,978 | 11,079 |
| | 地 方 債 | 326,500 | 319,234 | 7,265 | 199,595 | 196,222 | 3,372 |
| | 短期社債 | — | — | — | — | — | — |
| | 社 債 | 388,826 | 383,528 | 5,297 | 309,752 | 304,989 | 4,762 |
| | そ の 他 | 209,440 | 204,240 | 5,199 | 169,938 | 165,646 | 4,291 |
| 小 計 | 1,552,543 | 1,464,235 | 88,308 | 1,434,467 | 1,340,467 | 94,000 | |
| 中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの | 株 式 | 8,750 | 10,988 | △2,237 | 10,624 | 12,759 | △2,135 |
| | 債 券 | 109,065 | 109,219 | △153 | 88,357 | 89,135 | △777 |
| | 国 債 | 67,697 | 67,777 | △79 | 62,071 | 62,763 | △692 |
| | 地 方 債 | 6,819 | 6,837 | △17 | 7,448 | 7,455 | △6 |
| | 短期社債 | — | — | — | — | — | — |
| | 社 債 | 34,548 | 34,605 | △56 | 18,838 | 18,916 | △78 |
| | そ の 他 | 67,091 | 67,863 | △771 | 157,424 | 162,826 | △5,402 |
| 小 計 | 184,908 | 188,071 | △3,162 | 256,405 | 264,721 | △8,315 | |
| 合 計 | 1,737,452 | 1,652,306 | 85,145 | 1,690,873 | 1,605,188 | 85,684 | |

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|-------|------------|------------|
| | 中間貸借対照表計上額 | 中間貸借対照表計上額 |
| 株 式 | 5,739 | 5,684 |
| そ の 他 | 2,866 | 2,655 |
| 合 計 | 8,606 | 8,340 |

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

4. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって中間貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当中間期の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

減損処理額は、平成27年度中間期末株式11百万円であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための合理的な基準は、中間決算日における時価の取得原価に対する下落率が30%以上の銘柄をすべて著しく下落したと判断しております。

金銭の信託関係

1.満期保有目的の金銭の信託

平成26年度中間期末、平成27年度中間期末ともに、該当事項はありません。

2.その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外）

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | | | | | 平成27年度中間期末 | | | | |
|-----------|--------------------|-------|----|---|--|--------------------|-------|----|---|--|
| | 中間貸借 対照表 計上額 | 取得原価 | 差額 | うち 中間貸借 対照表 計上額が 取得原価を 超えるもの | うち 中間貸借 対照表 計上額が 取得原価を 超えないもの | 中間貸借 対照表 計上額 | 取得原価 | 差額 | うち 中間貸借 対照表 計上額が 取得原価を 超えるもの | うち 中間貸借 対照表 計上額が 取得原価を 超えないもの |
| その他の金銭の信託 | 5,620 | 5,620 | — | — | — | 1,000 | 1,000 | — | — | — |

(注)「うち中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

その他有価証券評価差額金

○その他有価証券評価差額金

中間貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|--------------|------------|------------|
| 評価差額 | 85,495 | 85,840 |
| その他有価証券 | 85,495 | 85,840 |
| (△)繰延税金負債 | 29,081 | 26,467 |
| その他有価証券評価差額金 | 56,413 | 59,373 |

(注) 評価差額には、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合の構成資産であるその他有価証券に係る評価差額平成26年度中間期末350百万円(益)、平成27年度中間期末156百万円(益)を含めております。

デリバティブ取引情報

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

| 区分 | 種類 | 平成26年度中間期末 | | | | 平成27年度中間期末 | | | | |
|---------|---------|------------|--------|--------|------|------------|--------|--------|------|-----|
| | | 契約額等 | うち1年超 | 時価 | 評価損益 | 契約額等 | うち1年超 | 時価 | 評価損益 | |
| 金融商品 | 金利先物 | 売 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | | 建 | — | — | — | — | — | — | — | |
| 取引所 | 金利オプション | 売 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | | 建 | — | — | — | — | — | — | — | |
| 店頭 | 金利先渡契約 | 売 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | | 建 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | 金利スワップ | 受取固定・支払変動 | 11,199 | 10,883 | 24 | 24 | 10,659 | 10,659 | △22 | △22 |
| | | 受取変動・支払固定 | 984 | 668 | △21 | △21 | 444 | 444 | △15 | △15 |
| 金利オプション | 売 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| | 建 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| その他 | 売 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| | 建 | — | — | — | — | — | — | — | — | |
| 合 | 計 | | | 2 | 2 | | | △37 | △37 | |

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。

店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

業務の状況

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

| 区 分 | 種 類 | 平成26年度中間期末 | | | | 平成27年度中間期末 | | | | |
|-------------|---------|------------|--------|--------|--------|------------|--------|--------|--------|-------|
| | | 契約額等 | うち1年超 | 時価 | 評価損益 | 契約額等 | うち1年超 | 時価 | 評価損益 | |
| 金融商品 取引所 | 通貨先物 | 売 建 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | | 買 建 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | 通貨オプション | 売 建 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | | 買 建 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | 通貨スワップ | 77,903 | 52,802 | △665 | △665 | 84,991 | 60,913 | △1,638 | △1,638 | |
| 店 頭 | 為替予約 | 売 建 | 79,614 | 153 | △2,778 | △2,778 | 34,839 | — | 360 | 360 |
| | | 買 建 | 25,657 | — | 585 | 585 | 22,302 | — | △98 | △98 |
| | 通貨オプション | 売 建 | 64,338 | 35,277 | △2,604 | 2,353 | 83,268 | 47,154 | △3,259 | 1,363 |
| | | 買 建 | 66,411 | 36,167 | 2,623 | △1,754 | 84,991 | 48,478 | 3,101 | △794 |
| | そ の 他 | 売 建 | 183 | 90 | △50 | △50 | 90 | 28 | △27 | △27 |
| | | 買 建 | 122 | 59 | 57 | 57 | 59 | 18 | 30 | 30 |
| 合 計 | | | | △2,832 | △2,252 | | | △1,529 | △803 | |

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。

2. 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

平成26年度中間期末、平成27年度中間期末ともに、該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

平成26年度中間期末、平成27年度中間期末ともに、該当事項はありません。

(5) 商品関連取引

平成26年度中間期末、平成27年度中間期末ともに、該当事項はありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

平成26年度中間期末、平成27年度中間期末ともに、該当事項はありません。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

| ヘッジ会計の方法 | 種類 | 平成26年度中間期末 | | | | 平成27年度中間期末 | | | |
|-------------|---------------------|------------|------|-------|----|-----------------|--------|--------|------|
| | | 主なヘッジ対象 | 契約額等 | うち1年超 | 時価 | 主なヘッジ対象 | 契約額等 | うち1年超 | 時価 |
| 原則的 処理方法 | 金利スワップ 受取変動・支払固定 | — | — | — | — | その他 有価証券(債券) | 60,000 | 60,000 | △466 |
| 合 | 計 | | | | — | | | | △466 |

(注) 1. 主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号平成14年2月13日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2. 時価の算定

取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。

店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定してしております。

(2) 通貨関連取引

平成26年度中間期末、平成27年度中間期末ともに、該当事項はありません。

(3) 株式関連取引

平成26年度中間期末、平成27年度中間期末ともに、該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

平成26年度中間期末、平成27年度中間期末ともに、該当事項はありません。

外国・内国為替等

外国為替取扱実績

(単位：百万ドル)

| | | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-------|------|-----------|-----------|
| 仕向為替 | 売渡為替 | 830 | 786 |
| | 買入為替 | 51 | 50 |
| 被仕向為替 | 支払為替 | 517 | 556 |
| | 取立為替 | 189 | 145 |
| 合 | 計 | 1,588 | 1,539 |

内国為替取扱実績

(単位：千口、億円)

| | | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|------|-----|-----------|--------|-----------|--------|
| | | 口数 | 金額 | 口数 | 金額 |
| 送金為替 | 仕 向 | 9,266 | 90,312 | 8,614 | 85,282 |
| | 被仕向 | 9,417 | 90,679 | 9,431 | 88,196 |
| 代金取立 | 仕 向 | 60 | 900 | 57 | 845 |
| | 被仕向 | 77 | 1,221 | 70 | 1,066 |

外貨建資産残高

(単位：百万ドル)

| | | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|------|---|------------|------------|
| 国内店分 | | 2,393 | 2,093 |
| 海外店分 | | — | — |
| 合 | 計 | 2,393 | 2,093 |

業務の状況

オフ・バランス取引情報

金融派生商品および先物外国為替取引

(単位：億円)

| | 平成26年度中間期末 | | 平成27年度中間期末 | |
|--------------|------------|-------|------------|-------|
| | 契約金額・想定元本額 | 与信相当額 | 契約金額・想定元本額 | 与信相当額 |
| 金利および通貨スワップ | 1,015 | 15 | 1,940 | 32 |
| 先物外国為替取引 | 910 | 14 | 558 | 11 |
| 金利および通貨オプション | 695 | 47 | 870 | 59 |
| その他の金融派生商品 | 3 | 0 | 1 | 0 |
| 合計 | 2,624 | 78 | 3,371 | 104 |

- (注) 1. 上記計数は自己資本比率基準（国内基準）に基づくものであり、与信相当額の算出にあたっては、カレントエクスポージャー方式を採用しております。
2. 与信相当額は、一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果の勘案前の金額であります。
3. 上記取引のうち、自己資本比率算出において、与信相当額から除外される「日々の値洗いによる証拠金を必要としている金融商品取引所取引、及び原契約期間が5営業日以内の外国為替関連取引」の契約金額・想定元本額は次のとおりであります。

(単位：億円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|--------------|------------|------------|
| | 契約金額・想定元本額 | 契約金額・想定元本額 |
| 金利および通貨スワップ | — | — |
| 先物外国為替取引 | 187 | 103 |
| 金利および通貨オプション | — | — |
| その他の金融派生商品 | — | — |
| 合計 | 187 | 103 |

与信関連取引

(単位：億円)

| | 平成26年度中間期末 | 平成27年度中間期末 |
|---------|------------|------------|
| | 契約金額 | 契約金額 |
| コミットメント | 13,325 | 13,120 |
| 保証取引 | 217 | 207 |
| その他 | — | — |
| 合計 | 13,543 | 13,327 |

自己資本の充実の状況等について

平成26年2月18日金融庁告示第7号「銀行法施行規則第19条の2第1項第5号二等の規定に基づき、自己資本の充実の状況等について金融庁長官が別に定める事項」に基づく情報開示

本項において「自己資本比率告示」とは、平成18年3月27日金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」をいいます。

自己資本の構成に関する事項

連結に係る自己資本の構成に関する事項

(単位：百万円)

| 項目 | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|--|-----------|-----------------|-----------|-----------------|
| | | 経過措置による 不算入額 | | 経過措置による 不算入額 |
| コア資本に係る基礎項目 (1) | | | | |
| 普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額 | 259,110 | | 258,466 | |
| うち、資本金及び資本剰余金の額 | 84,658 | | 85,008 | |
| うち、利益剰余金の額 | 177,401 | | 176,312 | |
| うち、自己株式の額 (△) | 1,532 | | 1,547 | |
| うち、社外流出予定額 (△) | 1,417 | | 1,307 | |
| うち、上記以外に該当するものの額 | — | | — | |
| コア資本に算入されるその他の包括利益累計額 | — | | 478 | |
| うち、為替換算調整勘定 | — | | — | |
| うち、退職給付に係るものの額 | — | | 478 | |
| 普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額 | 40 | | 83 | |
| コア資本に係る調整後非支配株主持分の額 | — | | — | |
| コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 | 9,736 | | 7,548 | |
| うち、一般貸倒引当金コア資本算入額 | 9,736 | | 7,548 | |
| うち、適格引当金コア資本算入額 | — | | — | |
| 適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額 | — | | — | |
| 適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額 | 31,000 | | 21,000 | |
| 公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額 | — | | — | |
| 土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額 | 10,028 | | 8,990 | |
| 非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額 | 15,214 | | 14,295 | |
| コア資本に係る基礎項目の額 (イ) | 325,129 | | 310,862 | |
| コア資本に係る調整項目 (2) | | | | |
| 無形固定資産 (モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。)の額の合計額 | 3,975 | 3,047 | 4,479 | 2,995 |
| うち、のれんに係るもの (のれん相当差額を含む。)の額 | 3,975 | — | 3,731 | — |
| うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライセンスに係るもの以外の額 | — | 3,047 | 748 | 2,995 |
| 繰延税金資産 (一時差異に係るものを除く。)の額 | — | 1,107 | — | — |
| 適格引当金不足額 | — | — | — | — |

(注) 自己資本比率告示における用語の変更ともない、「少数株主持分」は「非支配株主持分」へ表示を変更しております。

自己資本の充実の状況等について

(単位：百万円)

| 項 目 | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|---|-----------|-----------------|-----------|-----------------|
| | | 経過措置による 不算入額 | | 経過措置による 不算入額 |
| 証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額 | — | — | — | — |
| 負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額 | — | — | — | — |
| 退職給付に係る資産の額 | — | 1,875 | 1,172 | 4,688 |
| 自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額 | — | — | 0 | 1 |
| 意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額 | — | — | — | — |
| 少数出資金融機関等の対象普通株式等の額 | — | — | — | — |
| 特定項目に係る十パーセント基準超過額 | — | — | — | — |
| うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するもの に関連するものの額 | — | — | — | — |
| うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定 資産に関連するものの額 | — | — | — | — |
| うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に 関連するものの額 | — | — | — | — |
| 特定項目に係る十五パーセント基準超過額 | — | — | — | — |
| うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するもの に関連するものの額 | — | — | — | — |
| うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定 資産に関連するものの額 | — | — | — | — |
| うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に 関連するものの額 | — | — | — | — |
| コア資本に係る調整項目の額 (ロ) | 3,975 | | 5,652 | |
| 自己資本 | | | | |
| 自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ) | 321,154 | | 305,209 | |
| リスク・アセット等 (3) | | | | |
| 信用リスク・アセットの額の合計額 | 2,614,027 | | 2,717,878 | |
| うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される 額の合計額 | 15,724 | | 20,851 | |
| うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービ シング・ライツに係るものを除く。） | 3,047 | | 2,995 | |
| うち、繰延税金資産 | 1,107 | | — | |
| うち、退職給付に係る資産 | 1,875 | | 4,688 | |
| うち、他の金融機関等向けエクスポージャー | △12,591 | | △9,032 | |
| うち、上記以外に該当するものの額 | 22,284 | | 22,199 | |
| マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除し て得た額 | — | | — | |
| オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセント で除して得た額 | 150,508 | | 133,096 | |
| 信用リスク・アセット調整額 | — | | — | |
| オペレーショナル・リスク相当額調整額 | — | | — | |
| リスク・アセット等の額の合計額 (ニ) | 2,764,535 | | 2,850,974 | |
| 連結自己資本比率 | | | | |
| 連結自己資本比率 ((ハ) / (ニ)) | 11.61% | | 10.70% | |

単体に係る自己資本の構成に関する事項

(単位：百万円)

| 項 目 | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|--|-----------|-----------------|-----------|-----------------|
| | | 経過措置による 不算入額 | | 経過措置による 不算入額 |
| コア資本に係る基礎項目 (1) | | | | |
| 普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額 | 248,647 | | 246,700 | |
| うち、資本金及び資本剰余金の額 | 84,658 | | 84,655 | |
| うち、利益剰余金の額 | 166,939 | | 164,900 | |
| うち、自己株式の額 (△) | 1,532 | | 1,547 | |
| うち、社外流出予定額 (△) | 1,417 | | 1,307 | |
| うち、上記以外に該当するものの額 | — | | — | |
| 普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額 | 40 | | 83 | |
| コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 | 8,687 | | 6,614 | |
| うち、一般貸倒引当金コア資本算入額 | 8,687 | | 6,614 | |
| うち、適格引当金コア資本算入額 | — | | — | |
| 適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額 | — | | — | |
| 適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額 | 31,000 | | 21,000 | |
| 公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額 | — | | — | |
| 土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額 | 10,028 | | 8,990 | |
| コア資本に係る基礎項目の額 (イ) | 298,403 | | 283,389 | |
| コア資本に係る調整項目 (2) | | | | |
| 無形固定資産 (モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額 | 3,975 | 2,967 | 4,459 | 2,915 |
| うち、のれんに係るものの額 | 3,975 | — | 3,731 | — |
| うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額 | — | 2,967 | 728 | 2,915 |
| 繰延税金資産 (一時差異に係るものを除く。)の額 | — | 1,081 | — | — |
| 適格引当金不足額 | — | — | — | — |
| 証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額 | — | — | — | — |
| 負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額 | — | — | — | — |
| 前払年金費用の額 | — | 2,930 | 725 | 2,900 |
| 自己保有普通株式等 (純資産の部に計上されるものを除く。)の額 | — | — | 0 | 1 |
| 意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額 | — | — | — | — |
| 少数出資金融機関等の対象普通株式等の額 | — | — | — | — |

「ごあいさつ」

業績ハイライト

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

連結情報

財務の状況

業務の状況

自己資本の充実の状況等について

自己資本の充実の状況等について

(単位：百万円)

| 項 目 | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|---|-----------|-----------------|-----------|-----------------|
| | | 経過措置による 不算入額 | | 経過措置による 不算入額 |
| 特定項目に係る十パーセント基準超過額 | — | — | — | — |
| うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するもの に関連するものの額 | — | — | — | — |
| うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固 定資産に関連するものの額 | — | — | — | — |
| うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に 関連するものの額 | — | — | — | — |
| 特定項目に係る十五パーセント基準超過額 | — | — | — | — |
| うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するもの に関連するものの額 | — | — | — | — |
| うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固 定資産に関連するものの額 | — | — | — | — |
| うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に 関連するものの額 | — | — | — | — |
| コア資本に係る調整項目の額 (ロ) | 3,975 | | 5,185 | |
| 自己資本 | | | | |
| 自己資本の額 ((イ) - (ロ)) (ハ) | 294,427 | | 278,204 | |
| リスク・アセット等 (3) | | | | |
| 信用リスク・アセットの額の合計額 | 2,564,451 | | 2,663,806 | |
| うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入され る額の合計額 | 16,672 | | 18,982 | |
| うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービ シング・ライツに係るものを除く。） | 2,967 | | 2,915 | |
| うち、繰延税金資産 | 1,081 | | — | |
| うち、前払年金費用 | 2,930 | | 2,900 | |
| うち、他の金融機関等向けエクスポージャー | △12,591 | | △9,032 | |
| うち、上記以外に該当するものの額 | 22,284 | | 22,199 | |
| マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除し て得た額 | — | | — | |
| オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセント で除して得た額 | 137,232 | | 121,003 | |
| 信用リスク・アセット調整額 | — | | — | |
| オペレーショナル・リスク相当額調整額 | — | | — | |
| リスク・アセット等の額の合計額 (ニ) | 2,701,684 | | 2,784,809 | |
| 自己資本比率 | | | | |
| 自己資本比率 ((ハ) / (ニ)) | 10.89% | | 9.99% | |

連結に係る定量的な事項

1. その他金融機関等であって銀行の子法人等であるもののうち、規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-------------|-------------|
| 該当事項はありません。 | 該当事項はありません。 |

2. 自己資本の充実度に関する事項（連結）

(1) 信用リスクに対する所要自己資本の額

・資産（オン・バランス）項目

（単位：百万円）

| 項 目 | 所要自己資本の額 (リスク・アセット×4%) | |
|--|---------------------------|-----------|
| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
| 現金 | — | — |
| 我が国の中央政府及び中央銀行向け | — | — |
| 外国の中央政府及び中央銀行向け | 9 | 60 |
| 国際決済銀行等向け | — | — |
| 我が国の地方公共団体向け | 80 | 80 |
| 外国の中央政府等以外の公共部門向け | 2 | 8 |
| 国際開発銀行向け | — | 0 |
| 地方公共団体金融機構向け | 45 | 25 |
| 我が国の政府関係機関向け | 508 | 488 |
| 地方三公社向け | 42 | 34 |
| 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け | 1,628 | 1,025 |
| 法人等向け | 43,985 | 44,415 |
| 中小企業等向け及び個人向け | 24,033 | 26,288 |
| 抵当権付住宅ローン | 6,974 | 7,507 |
| 不動産取得等事業向け | 15,600 | 16,237 |
| 三月以上延滞等 | 403 | 249 |
| 取立未済手形 | 0 | 0 |
| 信用保証協会等による保証付 | 589 | 596 |
| 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付 | — | — |
| 出 資 等 | 3,586 | 4,142 |
| 上 記 以 外 | 4,596 | 4,390 |
| 証券化（オリジネーターの場合） | 309 | 12 |
| うち、再証券化 | — | — |
| 証券化（オリジネーター以外の場合） | 330 | 290 |
| うち、再証券化 | — | — |
| 複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産 | — | 60 |
| 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額 | 1,132 | 1,195 |
| 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額 | △ 503 | △ 361 |
| オン・バランス項目に対する所要自己資本額の合計① | 103,355 | 106,748 |
| 信用リスクに対する所要自己資本額 ①+②+③+④ | 104,561 | 108,715 |

(2) オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

（単位：百万円）

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|---|-----------|-----------|
| オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本額 (オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額×4%) | 6,020 | 5,323 |
| うち粗利益配分手法 | | 5,323 |
| うち基礎的手法 | 6,020 | |

(3) 連結総所要自己資本額

（単位：百万円）

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|------------------------------------|-----------|-----------|
| 連結総所要自己資本額 (リスク・アセット等の額の合計額×4%) | 110,581 | 114,038 |

・オフ・バランス取引等項目

（単位：百万円）

| 項 目 | 所要自己資本の額 (リスク・アセット×4%) | |
|---|---------------------------|-----------|
| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
| 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント | — | — |
| 原契約期間が1年以下のコミットメント | 56 | 48 |
| 短期の貿易関連偶発債務 | 49 | 49 |
| 特定の取引に係る偶発債務 (うち経過措置を適用する元本補てん信託契約) | 99 | 92 |
| N I F 又は R U F | — | — |
| 原契約期間が1年超のコミットメント | 210 | 339 |
| 内部格付手法におけるコミットメント | — | — |
| 信用供与に直接的に代替する偶発債務 (うち借入金の保証) | 389 | 350 |
| (うち有価証券の保証) | 207 | 180 |
| (うち手形引受) | — | — |
| (うち経過措置を適用しない元本補てん信託契約) | — | — |
| (うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供) | — | — |
| 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除後） | — | — |
| 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除前） | — | — |
| 控 除 額 (△) | — | — |
| 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券 | 3 | 90 |
| 有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供 又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入 | 169 | 608 |
| 派生商品取引及び長期決済期間取引 | 87 | 150 |
| カレント・エクスポージャー方式 | 87 | 150 |
| 派 生 商 品 取 引 | 87 | 150 |
| 外 為 関 連 取 引 | 126 | 196 |
| 金 利 関 連 取 引 | 3 | 15 |
| 金 関 連 取 引 | — | — |
| 株 式 関 連 取 引 | — | — |
| 貴金属（金を除く）関連取引 | — | — |
| その他のコモディティ関連取引 | — | — |
| クレジット・デリバティブ取引 (カウンターパーティー・リスク) | — | — |
| 一括清算ネットティング契約による 与信相当額削減効果(△) | 42 | 61 |
| 長 期 決 済 期 間 取 引 | — | — |
| 標 準 方 式 | — | — |
| 期待エクスポージャー方式 | — | — |
| 未 決 済 取 引 | — | — |
| 証券化エクスポージャーに係る適格流動性補充 及び適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス | — | — |
| 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー | 7 | 9 |
| オフ・バランス項目に対する所要自己資本額の合計② | 1,073 | 1,739 |
| CVAリスクに対する所要自己資本額 (CVAリスク相当額を8%で除して得た額×4%)③ | 131 | 226 |
| 中央清算機関関連エクスポージャーに対する 所要自己資本の額(リスク・アセット×4%) ④ | 0 | 0 |

自己資本の充実の状況等について

3. 信用リスクに関する事項（連結）（証券化エクスポージャーを除く）

(1) 信用リスクに関するエクスポージャーの中間期末残高（種類別・区分ごとの内訳）

（単位：百万円）

| | 信用リスク エクスポージャー 中間期末残高 | | | | | | | | うち三月以上延滞 エクスポージャー | |
|---------------------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|---------------|
| | 貸出金等 | | | | 債券 | | デリバティブ取引 | | | |
| | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 |
| 国内計 | 5,838,259 | 6,099,134 | 4,404,757 | 4,781,706 | 1,428,666 | 1,309,253 | 4,835 | 8,173 | 15,444 | 11,973 |
| 国外計 | 263,004 | 335,427 | 71,931 | 91,871 | 188,046 | 241,279 | 3,026 | 2,277 | 1,921 | — |
| 地域別合計 | 6,101,263 | 6,434,562 | 4,476,689 | 4,873,578 | 1,616,712 | 1,550,532 | 7,861 | 10,451 | 17,366 | 11,973 |
| 製造業 | 690,364 | 712,755 | 655,324 | 680,190 | 33,692 | 30,714 | 1,346 | 1,850 | 2,525 | 1,686 |
| 農業、林業 | 5,346 | 4,990 | 5,346 | 4,989 | — | — | 0 | 0 | 63 | 63 |
| 漁業 | 753 | 1,342 | 751 | 1,339 | — | — | 2 | 3 | — | — |
| 鉱業、採石業、 砂利採取業 | 5,197 | 6,461 | 5,197 | 6,461 | — | — | — | — | 27 | 25 |
| 建設業 | 101,670 | 105,251 | 100,871 | 104,542 | 787 | 701 | 11 | 7 | 773 | 406 |
| 電気・ガス・ 熱供給・水道業 | 54,365 | 54,642 | 48,239 | 50,588 | 6,126 | 4,053 | — | — | 1 | 0 |
| 情報通信業 | 30,155 | 27,530 | 28,257 | 27,527 | 1,898 | 3 | — | — | 10 | 29 |
| 運輸業、郵便業 | 181,970 | 156,755 | 112,345 | 109,423 | 69,623 | 47,323 | 2 | 8 | 261 | 318 |
| 卸売業、小売業 | 342,583 | 340,391 | 328,639 | 330,510 | 13,131 | 7,853 | 811 | 2,027 | 2,546 | 2,013 |
| 金融業、保険業 | 1,220,744 | 1,306,972 | 794,340 | 1,027,495 | 420,895 | 273,850 | 5,508 | 5,626 | 1,209 | 30 |
| 不動産業、 物品賃貸業 | 479,444 | 490,953 | 471,899 | 485,668 | 7,540 | 5,278 | 4 | 6 | 2,861 | 2,419 |
| 学術研究、専門・ 技術サービス業 | 18,392 | 19,611 | 18,354 | 19,579 | 6 | 6 | 31 | 26 | 144 | 19 |
| 宿泊業 | 20,221 | 19,702 | 20,181 | 19,662 | 40 | 40 | — | — | 6 | 514 |
| 飲食業 | 15,508 | 14,391 | 14,966 | 13,979 | 542 | 412 | — | — | 134 | 142 |
| 生活関連サービス業、 娯楽業 | 60,143 | 52,026 | 56,769 | 48,538 | 3,370 | 3,486 | 3 | 0 | 763 | 651 |
| 教育、学習支援業 | 6,475 | 5,459 | 6,475 | 5,459 | — | — | — | — | — | — |
| 医療・福祉 | 100,977 | 99,835 | 100,955 | 99,826 | 8 | — | 14 | 9 | 220 | 65 |
| その他のサービス | 54,623 | 34,727 | 29,089 | 29,389 | 25,533 | 5,327 | 0 | 10 | 328 | 352 |
| 国・地方公共団体 | 1,324,332 | 1,299,716 | 415,347 | 407,641 | 908,985 | 892,075 | — | — | — | — |
| 個人 | 1,104,334 | 1,213,408 | 1,104,276 | 1,213,272 | — | — | 58 | 136 | 3,566 | 3,231 |
| その他 | 283,655 | 467,635 | 159,058 | 187,492 | 124,529 | 279,405 | 68 | 737 | 1,921 | 3 |
| 業種別合計 | 6,101,263 | 6,434,562 | 4,476,689 | 4,873,578 | 1,616,712 | 1,550,532 | 7,861 | 10,451 | 17,366 | 11,973 |
| 1年以下 | 1,527,466 | 1,691,924 | 1,305,800 | 1,530,036 | 218,550 | 158,828 | 3,116 | 3,059 | — | — |
| 1年超3年以下 | 731,858 | 606,299 | 373,517 | 349,950 | 354,497 | 251,308 | 3,843 | 5,041 | — | — |
| 3年超5年以下 | 912,525 | 1,014,232 | 438,724 | 477,617 | 473,132 | 535,496 | 668 | 1,118 | — | — |
| 5年超7年以下 | 530,662 | 492,667 | 278,076 | 332,372 | 252,351 | 160,031 | 234 | 263 | — | — |
| 7年超10年以下 | 641,566 | 638,561 | 435,591 | 379,793 | 205,975 | 258,767 | — | — | — | — |
| 10年超 | 1,662,998 | 1,888,365 | 1,550,793 | 1,701,297 | 112,204 | 186,100 | — | 968 | — | — |
| 期間の定めのないもの | 94,185 | 102,511 | 94,185 | 102,511 | — | — | — | — | — | — |
| 残存期間別合計 | 6,101,263 | 6,434,562 | 4,476,689 | 4,873,578 | 1,616,712 | 1,550,532 | 7,861 | 10,451 | — | — |

(注) 1. 信用リスクエクスポージャーの残高は、信用リスク削減手法の効果の勘案前並びに、一括清算ネットリング契約による与信相当額削減効果の勘案前となっております。

2. 「貸出金等」には、貸出金のほか、債券以外のオン・バランス取引並びに、デリバティブ以外のオフ・バランス取引を含んでおります。

3. 「三月以上延滞エクスポージャー」は、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞しているエクスポージャー、又は引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるエクスポージャーであります。

(2) 一般貸倒引当金・個別貸倒引当金・特定海外債権引当勘定の中間期末残高及び期中の増減額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | |
|------------|-----------|--------|--------|-----------|--------|--------|
| | 期首残高 | 期中増減額 | 中間期末残高 | 期首残高 | 期中増減額 | 中間期末残高 |
| 一般貸倒引当金 | 9,825 | △1,017 | 8,808 | 7,896 | △1,156 | 6,740 |
| 個別貸倒引当金 | 31,554 | △2,607 | 28,947 | 30,315 | △1,963 | 28,352 |
| 特定海外債権引当勘定 | — | — | — | — | — | — |
| 合計 | 41,379 | △3,624 | 37,755 | 38,212 | △3,120 | 35,092 |

・個別貸倒引当金（地域別・業種別の内訳）

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | |
|-----------------|-----------|--------|--------|-----------|--------|--------|
| | 期首残高 | 期中増減額 | 中間期末残高 | 期首残高 | 期中増減額 | 中間期末残高 |
| 国内計 | 31,554 | △2,607 | 28,947 | 30,315 | △1,963 | 28,352 |
| 国外計 | — | — | — | — | — | — |
| 地域別合計 | 31,554 | △2,607 | 28,947 | 30,315 | △1,963 | 28,352 |
| 製造業 | 8,016 | △144 | 7,872 | 7,996 | △706 | 7,290 |
| 農業、林業 | 76 | △3 | 73 | 98 | 1 | 99 |
| 漁業 | 0 | △0 | — | — | — | — |
| 鉱業、採石業、砂利採取業 | 14 | △1 | 13 | 11 | △1 | 10 |
| 建設業 | 4,641 | △486 | 4,155 | 5,435 | △1,357 | 4,078 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 8 | 1 | 9 | 8 | △0 | 8 |
| 情報通信業 | 48 | △11 | 37 | 55 | △13 | 42 |
| 運輸業、郵便業 | 1,035 | △775 | 260 | 331 | 91 | 422 |
| 卸売業、小売業 | 5,329 | △162 | 5,167 | 5,489 | 548 | 6,037 |
| 金融業、保険業 | 1,321 | △112 | 1,209 | — | — | — |
| 不動産業、物品賃貸業 | 4,870 | △594 | 4,276 | 4,364 | △43 | 4,321 |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 112 | △6 | 106 | 124 | 0 | 124 |
| 宿泊業 | 1,244 | △417 | 827 | 938 | 41 | 979 |
| 飲食業 | 237 | 4 | 241 | 231 | △20 | 211 |
| 生活関連サービス業、娯楽業 | 1,272 | 121 | 1,393 | 1,994 | △369 | 1,625 |
| 教育、学習支援業 | 20 | 9 | 29 | 69 | 6 | 75 |
| 医療・福祉 | 487 | △13 | 474 | 450 | 101 | 551 |
| その他のサービス | 245 | △6 | 239 | 268 | △2 | 266 |
| 国・地方公共団体 | — | — | — | — | — | — |
| 個人 | 2,502 | △9 | 2,493 | 2,427 | △252 | 2,175 |
| その他 | 69 | △1 | 68 | 19 | 13 | 32 |
| 業種別合計 | 31,554 | △2,607 | 28,947 | 30,315 | △1,963 | 28,352 |

(注) 一般貸倒引当金につきましては、地域別・業種別の区分ごとの算出を行っておりません。

(3) 貸出金償却の額（業種別の内訳）

(単位：百万円)

| | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 |
|-----------------|---------------|---------------|
| 製造業 | — | — |
| 農業、林業 | — | — |
| 漁業 | — | — |
| 鉱業、採石業、砂利採取業 | — | — |
| 建設業 | — | 0 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | — | — |
| 情報通信業 | — | — |
| 運輸業、郵便業 | — | — |
| 卸売業、小売業 | 0 | — |
| 金融業、保険業 | — | — |
| 不動産業、物品賃貸業 | — | — |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | — | — |
| 宿泊業 | — | — |
| 飲食業 | — | — |
| 生活関連サービス業、娯楽業 | — | — |
| 教育、学習支援業 | — | — |
| 医療・福祉 | — | — |
| その他のサービス | — | — |
| 国・地方公共団体 | — | — |
| 個人 | 1 | 8 |
| その他 | — | — |
| 業種別合計 | 1 | 9 |

(4) リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの残高並びに125%のリスク・ウェイトが適用されるエクスポージャーの額（信用リスク削減手法の効果の勘案後）

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 格付あり | 格付なし | 格付あり | 格付なし |
| 0% | 186,006 | 1,835,329 | 248,363 | 1,935,800 |
| 10% | — | 274,688 | — | 273,079 |
| 20% | 350,793 | 29,979 | 303,337 | 42,398 |
| 30% | 2,000 | — | — | — |
| 35% | — | 498,226 | — | 536,276 |
| 40% | 1,603 | — | 802 | — |
| 50% | 288,955 | 9,992 | 295,062 | 7,203 |
| 60% | 800 | — | 2,800 | — |
| 70% | 10,498 | — | 18,107 | — |
| 75% | — | 800,474 | — | 882,048 |
| 100% | 50,783 | 1,475,929 | 46,445 | 1,519,233 |
| 110% | 1,007 | — | 1,006 | — |
| 120% | 270 | 3,956 | — | 3,469 |
| 150% | 1,921 | 3,774 | — | 4,276 |
| 250% | — | 1,155 | — | 6,333 |
| 350% | — | — | — | — |
| 1250% | — | — | — | — |
| 合計 | 894,640 | 4,933,505 | 915,926 | 5,210,122 |

(注) 1. 信用リスクエクスポージャーの残高は、信用リスク削減手法の効果の勘案後並びに、一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果の勘案後となっております。
2. 「格付あり」とは、適格格付機関が付与した格付を参照のうえリスク・ウェイトを判定したエクスポージャーであります。

「あこぎ」

業績ハイライト

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

連結情報

財務の状況

業務の状況

自己資本の充実の状況等について

自己資本の充実の状況等について

4. 信用リスク削減手法に関する事項（連結）

・信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：百万円)

| 区 分 | 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額 | |
|----------------------------------|---------------------------|-----------|
| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
| 現金及び自 行 預 金 | 199,717 | 244,101 |
| 金 | — | — |
| 適 格 債 券 | 20,000 | — |
| 適 格 株 式 | 6,896 | 6,291 |
| 適 格 投 資 信 託 | — | — |
| 適 格 金 融 資 産 担 保 合 計 | 226,614 | 250,393 |
| 適 格 保 証 | 209,349 | 133,881 |
| 適 格 クレジット・デリバティブ | 12 | 7 |
| 適 格 保 証 及 び 適 格 クレジット・デリバティブ 合 計 | 209,361 | 133,889 |

5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項（連結）

(1) 与信相当額の算出に用いる方式

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------------|-----------------|
| カレント・エクスポージャー方式 | カレント・エクスポージャー方式 |

(2) グロス再構築コストの額の合計額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| 3,709 | 4,767 |

(3) 与信相当額（担保による信用リスク削減手法の効果の勘案前）

(単位：百万円)

| 種類及び取引の区分 | 与信相当額 | |
|-----------------------------------|-----------|-----------|
| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
| 派 生 商 品 取 引 | 7,861 | 10,451 |
| 外 国 為 替 関 連 取 引 及 び 金 関 連 取 引 | 7,578 | 8,621 |
| 金 利 関 連 取 引 | 283 | 1,829 |
| 株 式 関 連 取 引 | — | — |
| 貴 金 属 関 連 取 引 (金 関 連 取 引 を 除 く) | — | — |
| そ の 他 の コ モ デ ィ テ ィ 関 連 取 引 | — | — |
| ク レ ジ ッ ト ・ デ リ バ テ ィ ブ | — | — |
| 長 期 決 済 期 間 取 引 | — | — |
| 一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果 (△) | 1,085 | 1,547 |
| 合 計 (A) | 6,776 | 8,904 |
| グロス再構築コストの額の合計額【再掲】(B) | 3,709 | 4,767 |
| グロスのアドオンの合計額 (C) | 4,152 | 5,684 |
| (B) + (C) - (A) | 1,085 | 1,547 |

(4) 担保の種類別の額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

(5) 与信相当額（担保による信用リスク削減手法の効果の勘案後）

(単位：百万円)

| 種類及び取引の区分 | 与信相当額 | |
|-----------------------------------|-----------|-----------|
| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
| 派 生 商 品 取 引 | 7,861 | 10,451 |
| 外 国 為 替 関 連 取 引 及 び 金 関 連 取 引 | 7,578 | 8,621 |
| 金 利 関 連 取 引 | 283 | 1,829 |
| 株 式 関 連 取 引 | — | — |
| 貴 金 属 関 連 取 引 (金 関 連 取 引 を 除 く) | — | — |
| そ の 他 の コ モ デ ィ テ ィ 関 連 取 引 | — | — |
| ク レ ジ ッ ト ・ デ リ バ テ ィ ブ | — | — |
| 長 期 決 済 期 間 取 引 | — | — |
| 一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果 (△) | 1,085 | 1,547 |
| 合 計 | 6,776 | 8,904 |

(6) 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

(7) 信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

6. 証券化エクスポージャーに関する事項（連結）

(1) オリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項

・原資産の合計額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|---------|-----------|-----------|
| 原資産の合計額 | 7,956 | 1,545 |

・資産譲渡型証券化取引に係る原資産の額（種類別の内訳）

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|---------|-----------|-----------|
| 手形債権 | 1,158 | 1,545 |
| 住宅ローン債権 | 6,798 | — |
| 合計 | 7,956 | 1,545 |

・合成型証券化取引に係る原資産の額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

・原資産を構成するエクスポージャーのうち、三月以上延滞エクスポージャーの額及び当中間期の損失額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|----------------|--------|----------------|--------|
| 三月以上延滞エクスポージャー | 当中間期損失 | 三月以上延滞エクスポージャー | 当中間期損失 |
| — | — | — | — |

・証券化取引を目的として保有している資産の額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|------|-----------|-----------|
| 資産の額 | — | — |

・当中間期に証券化を行ったエクスポージャーの概略

<平成26年度中間期> 証券の名称：手形債権シンジケートABL
格付：a-1（株式会社格付投資情報センター）
裏付資産：商業手形
クーポンタイプ：固定

| | | | |
|-----------|--------|--------|--------|
| 実行日 | 26年8月 | 26年9月 | 26年9月 |
| 予定弁済期日 | 26年10月 | 26年10月 | 26年11月 |
| 実行金額（百万円） | 1,260 | 139 | 1,156 |
| 劣後比率 | 11.85% | 9.74% | 9.74% |

<平成27年度中間期> 証券の名称：手形債権シンジケートABL
格付：a-1（株式会社格付投資情報センター）
裏付資産：商業手形
クーポンタイプ：固定

| | | |
|-----------|--------|--------|
| 実行日 | 27年9月 | 27年9月 |
| 予定弁済期日 | 27年10月 | 27年11月 |
| 実行金額（百万円） | 628 | 1,542 |
| 劣後比率 | 12.24% | 12.24% |

・証券化取引に伴い当中間期中に認識した売却損益の額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

自己資本の充実の状況等について

・保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 |
| 手形債権 | 1,827 | 923 | 1,551 | 1,198 |
| 住宅ローン債権 | 10,793 | — | — | — |
| 合計 | 12,621 | 923 | 1,551 | 1,198 |
| うち、再証券化 | — | — | — | — |

・保有する証券化エクスポージャーのリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | | 平成27年度中間期 | | | |
|-------------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|
| | オン・バランス取引 | | オフ・バランス取引 | | オン・バランス取引 | | オフ・バランス取引 | |
| | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 |
| 0% | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 20% | 10,128 | 81 | 923 | 7 | 1,551 | 12 | 1,198 | 9 |
| 50% | 2,120 | 42 | — | — | — | — | — | — |
| 50%超 150%未満 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 1250% | 372 | 186 | — | — | — | — | — | — |
| 合計 | 12,621 | 309 | 923 | 7 | 1,551 | 12 | 1,198 | 9 |

(注) 再証券化エクスポージャーは該当ありません。

・証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

・自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 |
| 住宅ローン債権 | 372 | — | — | — |
| 合計 | 372 | — | — | — |

・早期償還条項付の証券化エクスポージャー

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

・保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-------------|-------------|
| 該当事項はありません。 | 該当事項はありません。 |

(2) 投資家である証券化エクスポージャーに関する事項

・保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 |
| 施設整備事業(PFI) | 7,924 | — | 6,937 | — |
| オートローン債権 | 1,744 | — | 1,588 | — |
| 合計 | 9,669 | — | 8,525 | — |
| うち、再証券化 | — | — | — | — |

・保有する証券化エクスポージャーのリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | | 平成27年度中間期 | | | |
|-------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|
| | オン・バランス取引 | | オフ・バランス取引 | | オン・バランス取引 | | オフ・バランス取引 | |
| | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 |
| 0% | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 20% | 1,744 | 13 | — | — | 1,588 | 12 | — | — |
| 50% | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 100% | 7,924 | 316 | — | — | 6,937 | 277 | — | — |
| 1250% | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 合計 | 9,669 | 330 | — | — | 8,525 | 290 | — | — |

(注) 再証券化エクスポージャーは該当ありません。

・自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

・保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-------------|-------------|
| 該当事項はありません。 | 該当事項はありません。 |

7. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項（連結）

（ファンド等に含まれるエクスポージャーを除く）

(1) 中間連結貸借対照表計上額・時価

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|--------------------------|--------------|---------|--------------|---------|
| | 中間連結貸借対照表計上額 | 時価 | 中間連結貸借対照表計上額 | 時価 |
| 上場している出資等又は株式等エクスポージャー | 127,308 | | 152,382 | |
| 上記に該当しない出資等又は株式等エクスポージャー | 7,127 | | 7,090 | |
| 合計 | 134,435 | 134,435 | 159,473 | 159,473 |

(2) 出資等又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-------|-----------|-----------|
| 売却損益額 | 1,147 | 336 |
| 償却額 | 30 | 61 |

(3) 中間連結貸借対照表で認識され、かつ、中間連結損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| 58,800 | 68,776 |

(4) 中間連結貸借対照表及び中間連結損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

8. 銀行勘定における金利リスクに関して連結グループが内部管理上使用した金利ショックに対する経済的価値の増減額（連結）

<平成26年度中間期>

(単位：百万円)

| | |
|---------------------------|--------|
| 金利ショックに対する経済的価値の増減額 (VaR) | 30,416 |
|---------------------------|--------|

(内訳)

| | 保有期間 | 信頼水準 | 観測期間 | 増減額 (百万円) |
|---------|------|------|------|-----------|
| 預 貸 金 等 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 13,493 |
| 円 貸 債 券 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 8,045 |
| 外 貸 債 券 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 8,877 |

(注) 連結子会社については、本体と比べ資産規模が著しく小さく、金利リスク量の影響が軽微であると考えられることから、金利リスク量算出の対象としておりません。

<平成27年度中間期>

(単位：百万円)

| | |
|---------------------------|--------|
| 金利ショックに対する経済的価値の増減額 (VaR) | 61,619 |
|---------------------------|--------|

(内訳)

| | 保有期間 | 信頼水準 | 観測期間 | 増減額 (百万円) |
|---------|------|------|------|-----------|
| 預 貸 金 等 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 23,921 |
| 円 貸 債 券 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 17,807 |
| 外 貸 債 券 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 19,890 |

(注) 連結子会社については、本体と比べ資産規模が著しく小さく、金利リスク量の影響が軽微であると考えられることから、金利リスク量算出の対象としておりません。

自己資本の充実の状況等について

単体に係る定量的な事項

1. 自己資本の充実度に関する事項（単体）

(1) 信用リスクに対する所要自己資本の額

・資産（オン・バランス）項目

（単位：百万円）

| 項 目 | 所要自己資本の額 (リスク・アセット×4%) | |
|--|---------------------------|-----------|
| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
| 現 金 | — | — |
| 我が国の中央政府及び中央銀行向け | — | — |
| 外国の中央政府及び中央銀行向け | 9 | 60 |
| 国際決済銀行等向け | — | — |
| 我が国の地方公共団体向け | 80 | 80 |
| 外国の中央政府等以外の公共部門向け | 2 | 8 |
| 国際開発銀行向け | — | 0 |
| 地方公共団体金融機構向け | 45 | 25 |
| 我が国の政府関係機関向け | 508 | 488 |
| 地方三公社向け | 42 | 34 |
| 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け | 1,627 | 1,024 |
| 法人等向け | 42,491 | 42,845 |
| 中小企業等向け及び個人向け | 23,766 | 26,017 |
| 抵当権付住宅ローン | 6,974 | 7,507 |
| 不動産取得等事業向け | 15,575 | 16,212 |
| 三月以上延滞等 | 381 | 236 |
| 取立未済手形 | 0 | 0 |
| 信用保証協会等による保証付 | 589 | 596 |
| 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付 | — | — |
| 出 資 等 | 3,586 | 4,142 |
| 上 記 以 外 | 4,403 | 4,198 |
| 証券化（オリジネーターの場合） | 309 | 12 |
| うち、再証券化 | — | — |
| 証券化（オリジネーター以外の場合） | 330 | 290 |
| うち、再証券化 | — | — |
| 複数の資産を裏付とする資産（所謂ファンド）のうち、個々の資産の把握が困難な資産 | — | 60 |
| 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額 | 1,170 | 1,120 |
| 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額 | △ 503 | △ 361 |
| オン・バランス項目に対する所要自己資本額の合計① | 101,393 | 104,603 |
| 信用リスクに対する所要自己資本額 ①+②+③+④ | 102,578 | 106,552 |

(2) オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

（単位：百万円）

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|---|-----------|-----------|
| オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本額 (オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額×4%) | 5,489 | 4,840 |
| うち粗利益配分手法 | | 4,840 |
| うち基礎的手法 | 5,489 | |

(3) 単体総所要自己資本額

（単位：百万円）

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|------------------------------------|-----------|-----------|
| 単体総所要自己資本額 (リスク・アセット等の額の合計額×4%) | 108,067 | 111,392 |

・オフ・バランス取引等項目

（単位：百万円）

| 項 目 | 所要自己資本の額 (リスク・アセット×4%) | |
|---|---------------------------|-----------|
| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
| 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント | — | — |
| 原契約期間が1年以下のコミットメント | 56 | 48 |
| 短期の貿易関連偶発債務 | 49 | 49 |
| 特定の取引に係る偶発債務 (うち経過措置を適用する元本補てん信託契約) | 99 | 92 |
| N I F 又 は R U F | — | — |
| 原契約期間が1年超のコミットメント | 210 | 339 |
| 内部格付手法におけるコミットメント | — | — |
| 信用供与に直接的に代替する偶発債務 (うち借入金の保証) | 368 | 333 |
| (うち有価証券の保証) | 186 | 162 |
| (うち手形引受) | — | — |
| (うち経過措置を適用しない元本補てん信託契約) | — | — |
| (うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供) | — | — |
| 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除後） | — | — |
| 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等（控除前） | — | — |
| 控 除 額 (△) | — | — |
| 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券 | 3 | 90 |
| 有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入 | 169 | 608 |
| 派生商品取引及び長期決済期間取引 | 87 | 150 |
| カレント・エクスポージャー方式 | 87 | 150 |
| 派 生 商 品 取 引 | 87 | 150 |
| 外 為 関 連 取 引 | 126 | 196 |
| 金 利 関 連 取 引 | 3 | 15 |
| 金 関 連 取 引 | — | — |
| 株 式 関 連 取 引 | — | — |
| 貴金属（金を除く）関連取引 | — | — |
| その他のコモディティ関連取引 | — | — |
| クレジット・デリバティブ取引 (カウンターパーティー・リスク) | — | — |
| 一括清算ネットティング契約による 与信相当額削減効果(△) | 42 | 61 |
| 長 期 決 済 期 間 取 引 | — | — |
| 標 準 方 式 | — | — |
| 期待エクスポージャー方式 | — | — |
| 未 決 済 取 引 | — | — |
| 証券化エクスポージャーに係る適格流動性補完 及び適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス | — | — |
| 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー | 7 | 9 |
| オフ・バランス項目に対する所要自己資本額の合計② | 1,052 | 1,722 |
| CVAリスクに対する所要自己資本額 (CVAリスク相当額を8%で除して得た額×4%)③ | 131 | 226 |
| 中央清算機関関連エクスポージャーに対する 所要自己資本の額(リスクアセット×4%)④ | 0 | 0 |

2. 信用リスクに関する事項（単体）（証券化エクスポージャーを除く）

(1) 信用リスクに関するエクスポージャーの中間期末残高（種類別・区分ごとの内訳）

（単位：百万円）

| | 信用リスク エクスポージャー 中間期末残高 | | | | | | | | うち三月以上延滞エクスポージャー | |
|---------------------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------------|---------------|
| | | | 貸出金等 | | 債券 | | デリバティブ取引 | | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 |
| | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 | | |
| 国内計 | 5,784,652 | 6,041,180 | 4,351,600 | 4,724,194 | 1,428,216 | 1,308,812 | 4,835 | 8,173 | 13,456 | 10,316 |
| 国外計 | 263,004 | 335,427 | 71,931 | 91,871 | 188,046 | 241,279 | 3,026 | 2,277 | 1,921 | — |
| 地域別合計 | 6,047,656 | 6,376,608 | 4,423,532 | 4,816,065 | 1,616,262 | 1,550,091 | 7,861 | 10,451 | 15,378 | 10,316 |
| 製造業 | 666,407 | 687,882 | 631,368 | 655,317 | 33,692 | 30,714 | 1,346 | 1,850 | 1,848 | 1,188 |
| 農業、林業 | 5,308 | 4,887 | 5,308 | 4,887 | — | — | 0 | 0 | 63 | 63 |
| 漁業 | 753 | 1,342 | 751 | 1,339 | — | — | 2 | 3 | — | — |
| 鉱業、採石業、 砂利採取業 | 5,143 | 6,406 | 5,143 | 6,406 | — | — | — | — | 27 | 25 |
| 建設業 | 98,994 | 102,068 | 98,195 | 101,359 | 787 | 701 | 11 | 7 | 769 | 382 |
| 電気・ガス・ 熱供給・水道業 | 54,184 | 54,395 | 48,058 | 50,341 | 6,126 | 4,053 | — | — | — | — |
| 情報通信業 | 28,948 | 26,398 | 27,049 | 26,395 | 1,898 | 3 | — | — | 3 | 24 |
| 運輸業、郵便業 | 178,539 | 153,328 | 108,914 | 105,996 | 69,623 | 47,323 | 2 | 8 | 246 | 282 |
| 卸売業、小売業 | 337,084 | 334,815 | 323,141 | 324,934 | 13,131 | 7,853 | 811 | 2,027 | 2,423 | 1,919 |
| 金融業、保険業 | 1,226,197 | 1,312,056 | 799,793 | 1,032,580 | 420,895 | 273,850 | 5,508 | 5,626 | 1,209 | 30 |
| 不動産業、 物品賃貸業 | 493,679 | 506,603 | 485,734 | 500,918 | 7,940 | 5,678 | 4 | 6 | 2,858 | 2,416 |
| 学術研究、専門・ 技術サービス業 | 17,613 | 18,770 | 17,575 | 18,737 | 6 | 6 | 31 | 26 | 143 | 18 |
| 宿泊業 | 19,986 | 19,453 | 19,946 | 19,412 | 40 | 40 | — | — | — | 508 |
| 飲食業 | 15,176 | 14,033 | 14,634 | 13,621 | 542 | 412 | — | — | 131 | 138 |
| 生活関連サービス業、 娯楽業 | 58,271 | 49,827 | 54,897 | 46,339 | 3,370 | 3,486 | 3 | 0 | 694 | 650 |
| 教育、学習支援業 | 6,424 | 5,407 | 6,424 | 5,407 | — | — | — | — | — | — |
| 医療・福祉 | 97,466 | 96,261 | 97,444 | 96,252 | 8 | — | 14 | 9 | 203 | 42 |
| その他のサービス | 52,631 | 33,092 | 27,097 | 27,754 | 25,533 | 5,327 | 0 | 10 | 234 | 266 |
| 国・地方公共団体 | 1,323,468 | 1,298,867 | 415,333 | 407,633 | 908,135 | 891,234 | — | — | — | — |
| 個人 | 1,102,927 | 1,212,062 | 1,102,868 | 1,211,926 | — | — | 58 | 136 | 2,597 | 2,360 |
| その他 | 258,448 | 438,647 | 133,851 | 158,504 | 124,529 | 279,405 | 68 | 737 | 1,921 | — |
| 業種別合計 | 6,047,656 | 6,376,608 | 4,423,532 | 4,816,065 | 1,616,262 | 1,550,091 | 7,861 | 10,451 | 15,378 | 10,316 |
| 1年以下 | 1,526,710 | 1,692,507 | 1,305,043 | 1,530,219 | 218,550 | 159,228 | 3,116 | 3,059 | | |
| 1年超3年以下 | 723,657 | 599,908 | 364,916 | 343,558 | 354,898 | 251,308 | 3,843 | 5,041 | | |
| 3年超5年以下 | 896,939 | 997,144 | 423,138 | 461,370 | 473,132 | 534,655 | 668 | 1,118 | | |
| 5年超7年以下 | 523,884 | 483,563 | 272,148 | 323,268 | 251,501 | 160,031 | 234 | 263 | | |
| 7年超10年以下 | 638,036 | 634,955 | 432,061 | 376,188 | 205,975 | 258,767 | — | — | | |
| 10年超 | 1,661,625 | 1,887,178 | 1,549,420 | 1,700,109 | 112,204 | 186,100 | — | 968 | | |
| 期間の定めのないもの | 76,803 | 81,351 | 76,803 | 81,351 | — | — | — | — | | |
| 残存期間別合計 | 6,047,656 | 6,376,608 | 4,423,532 | 4,816,065 | 1,616,262 | 1,550,091 | 7,861 | 10,451 | | |

(注) 1. 信用リスクエクスポージャーの残高は、信用リスク削減手法の効果の勘案前並びに、一括清算ネットリング契約による与信相当額削減効果の勘案前となっております。

2. 「貸出金等」には、貸出金のほか、債券以外のオン・バランス取引並びに、デリバティブ以外のオフ・バランス取引を含んでおります。
3. 「三月以上延滞エクスポージャー」は、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞しているエクスポージャー、又は引当金勘案前でリスク・ウェイトが150%であるエクスポージャーであります。

自己資本の充実の状況等について

(2) 一般貸倒引当金・個別貸倒引当金・特定海外債権引当勘定の中間期末残高及び期中の増減額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | |
|------------|-----------|--------|--------|-----------|--------|--------|
| | 期首残高 | 期中増減額 | 中間期末残高 | 期首残高 | 期中増減額 | 中間期末残高 |
| 一般貸倒引当金 | 8,447 | △688 | 7,759 | 6,926 | △1,120 | 5,806 |
| 個別貸倒引当金 | 29,212 | △2,488 | 26,724 | 28,217 | △1,749 | 26,468 |
| 特定海外債権引当勘定 | — | — | — | — | — | — |
| 合計 | 37,660 | △3,176 | 34,484 | 35,144 | △2,870 | 32,274 |

・個別貸倒引当金（地域別・業種別の内訳）

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | 平成27年度中間期 | | |
|-----------------|-----------|--------|--------|-----------|--------|--------|
| | 期首残高 | 期中増減額 | 中間期末残高 | 期首残高 | 期中増減額 | 中間期末残高 |
| 国内計 | 29,212 | △2,488 | 26,724 | 28,217 | △1,749 | 26,468 |
| 国外計 | — | — | — | — | — | — |
| 地域別合計 | 29,212 | △2,488 | 26,724 | 28,217 | △1,749 | 26,468 |
| 製造業 | 7,546 | △204 | 7,342 | 7,524 | △642 | 6,882 |
| 農業、林業 | 74 | △2 | 72 | 97 | 0 | 97 |
| 漁業 | 0 | △0 | — | — | — | — |
| 鉱業、採石業、砂利採取業 | 14 | △1 | 13 | 11 | △1 | 10 |
| 建設業 | 4,591 | △471 | 4,120 | 5,412 | △1,357 | 4,055 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 6 | 0 | 6 | 7 | △1 | 6 |
| 情報通信業 | 41 | △11 | 30 | 48 | △12 | 36 |
| 運輸業、郵便業 | 1,022 | △765 | 257 | 329 | 90 | 419 |
| 卸売業、小売業 | 5,154 | △171 | 4,983 | 5,310 | 570 | 5,880 |
| 金融業、保険業 | 1,317 | △108 | 1,209 | — | — | — |
| 不動産業、物品賃貸業 | 4,851 | △590 | 4,261 | 4,325 | △44 | 4,281 |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 107 | △5 | 102 | 120 | 2 | 122 |
| 宿泊業 | 1,236 | △417 | 819 | 929 | 42 | 971 |
| 飲食業 | 222 | 3 | 225 | 200 | 3 | 203 |
| 生活関連サービス業、娯楽業 | 1,201 | 121 | 1,322 | 1,990 | △387 | 1,603 |
| 教育、学習支援業 | 20 | 9 | 29 | 68 | 6 | 74 |
| 医療・福祉 | 478 | △7 | 471 | 433 | 96 | 529 |
| その他のサービス | 215 | △0 | 215 | 180 | △11 | 169 |
| 国・地方公共団体 | — | — | — | — | — | — |
| 個人 | 1,041 | 133 | 1,174 | 1,207 | △113 | 1,094 |
| その他 | 69 | △1 | 68 | 18 | 10 | 28 |
| 業種別合計 | 29,212 | △2,488 | 26,724 | 28,217 | △1,749 | 26,468 |

(注) 一般貸倒引当金につきましては、地域別・業種別の区分ごとの算出を行っておりません。

(3) 貸出金償却の額（業種別の内訳）

(単位：百万円)

| | 平成26年度 中間期 | 平成27年度 中間期 |
|-----------------|---------------|---------------|
| 製造業 | — | — |
| 農業、林業 | — | — |
| 漁業 | — | — |
| 鉱業、採石業、砂利採取業 | — | — |
| 建設業 | — | — |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | — | — |
| 情報通信業 | — | — |
| 運輸業、郵便業 | — | — |
| 卸売業、小売業 | — | — |
| 金融業、保険業 | — | — |
| 不動産業、物品賃貸業 | — | — |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | — | — |
| 宿泊業 | — | — |
| 飲食業 | — | — |
| 生活関連サービス業、娯楽業 | — | — |
| 教育、学習支援業 | — | — |
| 医療・福祉 | — | — |
| その他のサービス | — | — |
| 国・地方公共団体 | — | — |
| 個人 | — | — |
| その他 | — | — |
| 業種別合計 | — | — |

(4) リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの残高並びに1250%のリスク・ウェイトが適用されるエクスポージャーの額（信用リスク削減手法の効果の勘案後）

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 格付あり | 格付なし | 格付あり | 格付なし |
| 0% | 186,006 | 1,834,464 | 248,363 | 1,934,951 |
| 10% | — | 274,688 | — | 273,079 |
| 20% | 350,708 | 29,979 | 303,277 | 42,398 |
| 30% | 2,000 | — | — | — |
| 35% | — | 498,226 | — | 536,276 |
| 40% | 1,603 | — | 802 | — |
| 50% | 288,955 | 8,395 | 295,062 | 5,833 |
| 60% | 800 | — | 2,800 | — |
| 70% | 10,498 | — | 18,107 | — |
| 75% | — | 791,563 | — | 872,993 |
| 100% | 50,768 | 1,434,053 | 46,435 | 1,473,516 |
| 110% | 1,007 | — | 1,006 | — |
| 120% | 270 | 3,956 | — | 3,469 |
| 150% | 1,921 | 3,516 | — | 4,176 |
| 250% | — | 1,155 | — | 5,542 |
| 350% | — | — | — | — |
| 1250% | — | — | — | — |
| 合計 | 894,539 | 4,879,999 | 915,855 | 5,152,238 |

(注) 1. 信用リスクエクスポージャーの残高は、信用リスク削減手法の効果の勘案後並びに、一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果の勘案後となっております。
2. 「格付あり」とは、適格格付機関が付与した格付を参照のうえリスク・ウェイトを判定したエクスポージャーであります。

3. 信用リスク削減手法に関する事項 (単体)
・信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：百万円)

| 区 分 | 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額 | |
|------------------------|---------------------------|-----------|
| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
| 現金及び自 行 預 金 | 199,717 | 244,101 |
| 金 | — | — |
| 適 格 債 券 | 20,000 | — |
| 適 格 株 式 | 6,896 | 6,291 |
| 適 格 投 資 信 託 | — | — |
| 適 格 金 融 資 産 担 保 合 計 | 226,614 | 250,393 |
| 適 格 保 証 | 209,349 | 133,881 |
| 適 格 クレジット・デリバティブ | 12 | 7 |
| 適格保証及び適格クレジット・デリバティブ合計 | 209,361 | 133,889 |

4. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項 (単体)

(1) 与信相当額の算出に用いる方式

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------------|-----------------|
| カレント・エクスポージャー方式 | カレント・エクスポージャー方式 |

(2) グロス再構築コストの額の合計額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| 3,709 | 4,767 |

(3) 与信相当額 (担保による信用リスク削減手法の効果の勘案前)

(単位：百万円)

| 種類及び取引の区分 | 与信相当額 | |
|---------------------------------|-----------|-----------|
| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
| 派 生 商 品 取 引 | 7,861 | 10,451 |
| 外 国 為 替 関 連 取 引 及 び 金 関 連 取 引 | 7,578 | 8,621 |
| 金 利 関 連 取 引 | 283 | 1,829 |
| 株 式 関 連 取 引 | — | — |
| 貴 金 属 関 連 取 引 (金 関 連 取 引 を 除 く) | — | — |
| そ の 他 の コ モ デ ィ テ ィ 関 連 取 引 | — | — |
| ク レ ジ ッ ト ・ デ リ バ テ ィ ブ | — | — |
| 長 期 決 済 期 間 取 引 | — | — |
| 一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果 (△) | 1,085 | 1,547 |
| 合 計 (A) | 6,776 | 8,904 |
| グロス再構築コストの額の合計額【再掲】(B) | 3,709 | 4,767 |
| グロスのアドオンの合計額 (C) | 4,152 | 5,684 |
| (B) + (C) - (A) | 1,085 | 1,547 |

(4) 担保の種類別の額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

(5) 与信相当額 (担保による信用リスク削減手法の効果の勘案後)

(単位：百万円)

| 種類及び取引の区分 | 与信相当額 | |
|---------------------------------|-----------|-----------|
| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
| 派 生 商 品 取 引 | 7,861 | 10,451 |
| 外 国 為 替 関 連 取 引 及 び 金 関 連 取 引 | 7,578 | 8,621 |
| 金 利 関 連 取 引 | 283 | 1,829 |
| 株 式 関 連 取 引 | — | — |
| 貴 金 属 関 連 取 引 (金 関 連 取 引 を 除 く) | — | — |
| そ の 他 の コ モ デ ィ テ ィ 関 連 取 引 | — | — |
| ク レ ジ ッ ト ・ デ リ バ テ ィ ブ | — | — |
| 長 期 決 済 期 間 取 引 | — | — |
| 一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果 (△) | 1,085 | 1,547 |
| 合 計 | 6,776 | 8,904 |

自己資本の充実の状況等について

(6) 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

(7) 信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

5. 証券化エクスポージャーに関する事項 (単体)

(1) オリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項

・原資産の合計額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|---------|-----------|-----------|
| 原資産の合計額 | 7,956 | 1,545 |

・資産譲渡型証券化取引に係る原資産の額 (種類別の内訳)

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|---------|-----------|-----------|
| 手形債権 | 1,158 | 1,545 |
| 住宅ローン債権 | 6,798 | — |
| 合計 | 7,956 | 1,545 |

・合成型証券化取引に係る原資産の額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

・原資産を構成するエクスポージャーのうち、三月以上延滞エクスポージャーの額及び当中間期の損失額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|----------------|--------|----------------|--------|
| 三月以上延滞エクスポージャー | 当中間期損失 | 三月以上延滞エクスポージャー | 当中間期損失 |
| — | — | — | — |

・証券化取引を目的として保有している資産の額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|------|-----------|-----------|
| 資産の額 | — | — |

・当中間期に証券化を行ったエクスポージャーの概略

<平成26年度中間期> 証券の名称：手形債権シンジケートABL
格付：a-1 (株式会社格付投資情報センター)
裏付資産：商業手形
クーポンタイプ：固定

| | | | |
|------------|--------|--------|--------|
| 実行日 | 26年8月 | 26年9月 | 26年9月 |
| 予定弁済期日 | 26年10月 | 26年10月 | 26年11月 |
| 実行金額 (百万円) | 1,260 | 139 | 1,156 |
| 劣後比率 | 11.85% | 9.74% | 9.74% |

<平成27年度中間期> 証券の名称：手形債権シンジケートABL
格付：a-1 (株式会社格付投資情報センター)
裏付資産：商業手形
クーポンタイプ：固定

| | | |
|------------|--------|--------|
| 実行日 | 27年9月 | 27年9月 |
| 予定弁済期日 | 27年10月 | 27年11月 |
| 実行金額 (百万円) | 628 | 1,542 |
| 劣後比率 | 12.24% | 12.24% |

・証券化取引に伴い当中間期中に認識した売却損益の額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

・保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 |
| 手形債権 | 1,827 | 923 | 1,551 | 1,198 |
| 住宅ローン債権 | 10,793 | — | — | — |
| 合計 | 12,621 | 923 | 1,551 | 1,198 |
| うち、再証券化 | — | — | — | — |

・保有する証券化エクスポージャーのリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | | 平成27年度中間期 | | | |
|-------------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|
| | オン・バランス取引 | | オフ・バランス取引 | | オン・バランス取引 | | オフ・バランス取引 | |
| | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 |
| 0% | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 20% | 10,128 | 81 | 923 | 7 | 1,551 | 12 | 1,198 | 9 |
| 50% | 2,120 | 42 | — | — | — | — | — | — |
| 50%超 150%未満 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 1250% | 372 | 186 | — | — | — | — | — | — |
| 合計 | 12,621 | 309 | 923 | 7 | 1,551 | 12 | 1,198 | 9 |

(注) 再証券化エクスポージャーは該当ありません。

・証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

・自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 |
| 住宅ローン債権 | 372 | — | — | — |
| 合計 | 372 | — | — | — |

・早期償還条項付の証券化エクスポージャー

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

・保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-------------|-------------|
| 該当事項はありません。 | 該当事項はありません。 |

(2) 投資家である証券化エクスポージャーに関する事項

・保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 | オン・バランス取引 | オフ・バランス取引 |
| 施設整備事業(PFI) | 7,924 | — | 6,937 | — |
| オートローン債権 | 1,744 | — | 1,588 | — |
| 合計 | 9,669 | — | 8,525 | — |
| うち、再証券化 | — | — | — | — |

・保有する証券化エクスポージャーのリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | | | 平成27年度中間期 | | | |
|-------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|
| | オン・バランス取引 | | オフ・バランス取引 | | オン・バランス取引 | | オフ・バランス取引 | |
| | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 | 残高 | 所要自己資本の額 |
| 0% | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 20% | 1,744 | 13 | — | — | 1,588 | 12 | — | — |
| 50% | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 100% | 7,924 | 316 | — | — | 6,937 | 277 | — | — |
| 1250% | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 合計 | 9,669 | 330 | — | — | 8,525 | 290 | — | — |

(注) 再証券化エクスポージャーは該当ありません。

自己資本の充実の状況等について

・自己資本比率告示第247条第1項の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

・保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-------------|-------------|
| 該当事項はありません。 | 該当事項はありません。 |

6. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項 (単体)

(ファンド等に含まれるエクスポージャーを除く)

(1) 中間貸借対照表計上額・時価

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | | 平成27年度中間期 | |
|--------------------------|------------|---------|------------|---------|
| | 中間貸借対照表計上額 | 時価 | 中間貸借対照表計上額 | 時価 |
| 上場している出資等又は株式等エクスポージャー | 125,956 | | 150,891 | |
| 上記に該当しない出資等又は株式等エクスポージャー | 13,588 | | 13,533 | |
| 合計 | 139,544 | 139,544 | 164,425 | 164,425 |

(2) 出資等又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

| | 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-------|-----------|-----------|
| 売却損益額 | 1,147 | 369 |
| 償却損益額 | 30 | 58 |

(3) 中間貸借対照表で認識され、かつ、中間損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| 58,027 | 67,864 |

(4) 中間貸借対照表及び中間損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位：百万円)

| 平成26年度中間期 | 平成27年度中間期 |
|-----------|-----------|
| — | — |

7. 銀行勘定における金利リスクに関して銀行が内部管理上使用した金利ショックに対する経済的価値の増減額 (単体)

<平成26年度中間期>

(単位：百万円)

| | |
|---------------------------|--------|
| 金利ショックに対する経済的価値の増減額 (VaR) | 30,416 |
|---------------------------|--------|

(内訳)

| | 保有期間 | 信頼水準 | 観測期間 | 増減額 (百万円) |
|------|------|------|------|-----------|
| 預貸金等 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 13,493 |
| 円貨債券 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 8,045 |
| 外貨債券 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 8,877 |

(注) 預貸金等は、金利リスクの影響を受ける金融商品のうち、預金及び貸出金、有価証券のうち私募債、借入金、社債となります。

<平成27年度中間期>

(単位：百万円)

| | |
|---------------------------|--------|
| 金利ショックに対する経済的価値の増減額 (VaR) | 61,619 |
|---------------------------|--------|

(内訳)

| | 保有期間 | 信頼水準 | 観測期間 | 増減額 (百万円) |
|------|------|------|------|-----------|
| 預貸金等 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 23,921 |
| 円貨債券 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 17,807 |
| 外貨債券 | 6ヶ月 | 99% | 1年 | 19,890 |

(注) 預貸金等は、金利リスクの影響を受ける金融商品のうち、預金及び譲渡性預金 (平成26年度決算期より追加)、貸出金、有価証券のうち私募債、借入金、社債となります。